



Title	唐・五代歳時記資料の研究
Author(s)	守屋, 美都雄
Citation	大阪大学文学部紀要. 1962, 9, p. 1-223
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/9019
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

資

料

篇

一 千金月令輯本 第一部

第一部では、朝鮮の醫方類聚所引の條文を除外し、その他の諸書に見える條文をあつめる。

條文の配列順序は筆者自身の判断によつて決定する。

- (1) (2) (3) 同一事項の條文が二つ以上の書に見えるときは、相互の異同を注記するが、その異同の指摘は重要な點のみに止め、必しも一字一字の比較は行わない。
- (4) 養生月覽よりの引用は、原則として舊紅葉山文庫本による。養生月覽諸本相互の校合は、後段、養生月覽輯本の條を参照せられたい。

正月、宜進桑枝湯及造煎以備用、其桑枝湯方、取桑枝如箭筈大者、細剉、以酥熬作湯、又桑枝煎方、取桑枝大如箭筈、簾者細剉、三升熬令微黃、以水六升煎、三升去滓、以重湯煎、取二升、下白密二合黃明膠一兩、炙作末、煎成、以不津器封貯之(養生月覽。月令輯要卷五 正月令 民用・月令粹編卷二三 正月令雜識、稍々簡略)

大分、煮取汁作粥、三曰紫蘇、以去擁氣、取紫蘇子、熬令黃香、⁽⁷⁾以水研瀘、取汁作粥(養生月覽。養生類纂卷一三 食餳部 粥の條に、地黃粥・防風粥・紫蘇粥として同様の記事あり。邊生八牋卷三 四時調攝 正月事宜・月令輯要卷五 正月令 民用、相似の文あり)

1 下之。八牋・輯要、「下汁」を作る。

2 椒一百粒。八牋・輯要、「花椒五十粒」を作る。

3 下。八牋・輯要、「再下熟」を作る。

4 去脂膜。八牋・輯要、この三字を缺く。

5 細切。八牋・輯要、「碎切成條」を作る。

6 二大分。八牋・輯要、「一大分」を作る。

7 熬令黃香。八牋・輯要、「炒微黃香」を作る。

8 以水研漚。八牋、この四字を缺き、輯要、「煎汁濾淨、作粥甚良」に作る。

二月二日、取枸杞、煎湯晚沐、令人光澤不病不老（邊生八牋卷三 四時調節 二月事宜、養余月令卷四 二月下 調節）

正月、韭始青、可以食、凡韭不可以作羹、食損人、作羹佳、凡作羹、以先削一所地去上一寸土、取韭不洗、便投沸湯中、漉出、舖所剗新土上良久、然後入水淘擇（養生月覽）

二月二日、不欲眠（養生月覽）

正月之節、宜加縣襪、以暖足（養生月覽）

上元夜、登樓、貴戚例有黃柑相遺、謂之傳柑（說郛局六九）

二月三日、不可晝眠（邊生八牋卷三 四時調節二月事忌 編目新書卷三）

立春日、貼宜春字于門（說郛局六九）

是月（二月）五日、修太上慶生齋（養餘月令卷三 二月上 程作）

唐制、立春、賜三省官綵勝、各有差（說郛局六九・月令輯要卷五 正月令 節序）

二月中、不可弔喪問疾、可衣夾衣（養生月覽）

立春日、食生菜不可過多、取迎新之意、及進漿粥、以導和氣（養生月覽）

二月之節、不可食生冷（養生月覽）

驚蟄日、取石灰、移門外限、可絕蟲蟻（養餘月令卷三 二月上 經作）⁽¹⁾

驚蟄日、取石灰、移門外限、可絕蟲蟻（養餘月令卷三 二月上 經作）⁽¹⁾

春分後、宜服神明散、其方用蒼朮桔梗各二兩、附子一兩、炮烏頭四兩、炮細辛一兩、右搗篩爲散、絳囊盛帶之、方寸

1 門外限。月令輯要 二月令、「門限外」に作る。

七、一人帶、一家無病、有染時氣者、新汲水、調方寸匕服之、取汗便差（養生月覽）

二月以後、當服祛痰之藥、風勞之疾、每起痰、人能先令痰疏導、則病可庶幾（この文、古今圖書集成卷二九 歲功典仲春彙考に、前文神明散の記事に續けて錄せられる。圖書集成は、前文の出典を「月令」としているが、これを千金月令の略稱と解すれば、それに續く文も一應、千金月令の一部と解せられる。いまこれを千金月令として扱つておく。下の二條も同じく扱う。）

是月上丙日、宜洗頭髮、愈疾效、上卯、沐浴、去百病（承前）
是月二十五、天倉開日、宜坐圜入山脩道（承前）
三月三日、取艾爲人、挂戶以備一歲之灸用、凡灸、避人神之所在（養生月覽）

三月三日、採艾挂戶、風乾、以備醫藥（廣群芳譜卷三天時譜 三月）

三月三日、上踏青鞋履（說郛局六九）

南燭葉煎、益鬚髮及容顏兼補暖、方、三月三日、採葉并藥子、入大淨瓶中乾、盛以童子小便、浸滿瓶、固濟其口、置閑處、經一周年取開、每日一兩次、溫酒服之、每酒一盞、調煎一匙、極有効驗（歲時廣記卷一九 上巳 浸南燭。政和證類大觀本草卷一四 南燭の條の引用文は誤脱が多い）

上巳、桃花水上、招魂續魄、秉蘭草、祓除不祥（說郛局六九）

三月之節、宜飲松花酒、其法、取糯米、淘百遍、以神麴和、凡米一斗、用神麴五兩、春月取松花精長五六寸者、至一尺余風尾者各三兩、枝細剉、一升蒸之、網袋盛以酒一升浸、取五日堪服、一服三合、日三服、久服神仙（養生月覽。養生類纂卷一四 食饌部 酒 の條、ほど同じ）

四月之節、宜服新衣、宜進溫食、宜服緩藥、宜食羊腎臍、⁽¹⁾造羊腎法、先以兔絲子一兩、研煮取汁、⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾濾之、溲麵切煮、⁽⁵⁾服以羊腎一具切條葱、炒作臍服之、尤療眼暗及赤痛（養生

月覽)

- 1 羊腎臍。遵生八牋卷四 四時調節 四月事宜、養余月令卷八 四月上
藥餌、共に「羊腎粥」を作る。
- 2 先。養生月覽、「右」を作るも、養余月令によつて改む。
- 3 取汁。遵生八牋・養余月令、「取汁一兩」を作る。
- 4 濾之、浸麵。同じく「濾淨、和麵」を作る。
- 5 切條葱。養生月覽、「以」の一宇あるのみ。いま遵生八牋に従い、「切條葱」の三字を代入す。
- 6 赤痛。遵生八牋・古今圖書集成卷四五歲功典孟夏部、「赤腫」を作る。

此月、宜晚臥早起、感受天地之精氣、令人長（古今圖書集成卷四五歲功典孟夏部）

歲功典 孟夏部

四月之節、宜服附子湯、其方用附子一枚、炮勿令焦、爲末、分作三服、以生薑一片、用水一升、煎取五合、明早空腹服（養生月覽）

四月之節、宜食筍、以寬湯湧沸、先旋湯轉、然後投筍於中、令其自轉、不得攪、攪即破、候熟出之、如此則色青而軟、軟而不爛、可以食、和皮擘開、內梗米飯細炒羊肉、并土蘇椒鹽豉汁塗花等、却以麵封之、文火燒、聞香即熟、去皮厚一寸截之以進、筍味此最佳（養生月覽）

五月、取瓦上青苔或百草霜、入塙嗽口效、或水煮羊蹄根、

四月之節、可以飲榼酒、尤治風熱之疾、可以造榼煎、其造榼煎法、用榼汁三斗白密兩合酥一兩生薑汁一合、以重湯煮榼汁取三升、入塙蘇子、煮令得所、於不津器中貯之、每服一合、和酒調服、理百種風疾（養生月覽）

五月五日、作赤靈符、着心前、辟兵（說郛局六九）

此月（1）、取浮萍陰乾、和雄黃些少、燒煙去蚊、火燒棗子、安床下、辟狗蚤（遵生八牋卷四 四時調攝 五月事宜、養餘月令卷九 五月 經作、「和雄黃」の「和」の字を缺くのみ）
1 是月。養生月覽は「五月五日、取漂萍……」を作る。

五月五日、午時、採百藥心相和搗、鑿桑樹心作孔、內藥於其中、以泥封之、滿百日、開取暴乾、搗作末、以傳金瘡（養生月覽）

五月五日、糉子等勿多食、食訖、以菖蒲酒投之、取菖蒲根節促者七莖各長一寸、漬酒中、服之、治傷損（養生月覽）

或錯煮川椒、俱能治齒百疾（養餘月令卷一〇 五月 藥餌）

治瘧疾神效方、五月五日、午時、用黑豆四十九粒、水泡去

皮入人言一錢、同搗如泥、丸如桐子大、雄黃爲衣、陰乾、

臨發日早東面無根、水送下一丸、忌發熱之物、渴飲溫熱

水、又忌魚腥生冷茶豆湯、三日必效（月令通考卷六）

端午、以菖蒲、或縷或屑、以泛酒（說郛局六九）

取蟾酥法、五月捉大癩蝦蟆、先洗淨、用繩縛、任以小杖、鞭眉上兩道高處、須叟有白膏自出、便刮在淨器內收貯、乃真蟾酥也（月令通考卷六 五月）

五月、宜服五味子湯、其方取五味子一大合、以木杵臼搗之、置小甕瓶中、以百沸湯點、入少蜜、卽密封頭、置火邊、良久乃堪服（養生月覽）

六月、可以飲木瓜漿、其造木瓜漿法、用木瓜削去皮、細切、以湯淋之、加少薑汁、沈之井中、冷以進之（養生月覽）

七月之部、宜出衣服圖書、以暴之（養生月覽）

七月十五日、營盆供、寺爲盂蘭會（說郛局六九）

是月、可食烏梅醬、止渴方、用烏梅、搗爛加蜜、適中調湯、微煮飲之、水瀉渴者、以梅加砂糖薑米、飲之不渴（邊生八牋卷四 四時調攝 六月事宜）

¹ 搗爛。養生月覽、この二字を缺き、「用烏梅」の下に、「并取核中人（仁）碎之」と記す。

伏日、進湯餅、名爲辟惡（說郛局六九）

七月中、暑氣將伏、宜以稍冷爲理、宜食竹葉粥、其竹葉粥法、取淡竹葉一握梔子兩枚切⁽¹⁾熬、以水煎、澄取清、卽細漸粳米、研取油、下米於竹葉梔子汁中、旋點泔煮之、候熟下鹽花進之（養生月覽）

¹ 切熬。邊生八牋卷五 四時調攝 七月事宜「切碎」に作る。

² 取清。邊生八牋及び養生月令卷一三 七月調攝、この下に「去渣」の二字あり。

³ 細漸粳米。右二書、「用淘粳米」を作る。
⁴ 進之。養生類纂卷一三 食餌部 粥の條、この下に、「或失理則痢疾、宜以防之」とあり。

立秋後五日、瓜不可食（養生月覽）

九月中、宜進地黃湯、其法取地黃淨洗、以竹刀子薄切、暴乾、每作湯時、先微火熬、碾爲末、煎如茶法（養生月覽）。

八月八日、不宜眠（養生月覽）

九月中、宜進地黃湯、其法取地黃淨洗、以竹刀子薄切、暴乾、每作湯時、先微火熬、碾爲末、煎如茶法（養生月覽）。

八月、可食韭(1)、并可食露葵（養生月覽）

1 「韭」以下、遵生八牋卷五 四時調攝 秋八月事宜、月令輯要卷一五八
月令 民用の條、「韭菜露葵」に作る。

八月、陰事始盛、冷疾者宜以防之（養生月覽）

秋分之日、不可殺生、不可以行刑罰、不可以處房帷、不可

弔喪問疾、不可以大醉、君子必齋戒、靜專以自檢（養生月

覽。遵生八牋卷五 四時調攝 八月事忌、養餘月令 八月
避忌、細目新書 八月の條等、ほど同じ）

十月朔、都城士庶、皆出城饗墳、禁中車馬朝陵、如寒食節
(說郛局六九)

十月之節、始服寒服（養生月覽）

十月、宜進棗湯、其棗湯法、取大棗、除去皮、核中破之、
於文武火上翻覆炙令香、然後煮作湯（養生月覽。なお、
「棗湯法」以下は養生類纂卷一四 食餚部 湯水の條、同文）

九月之節、始服夾衣、陰氣既衰、陽氣未伏、可以餌補修之

十一月十一日、不可沐浴、仙家大忌（養生月覽）

藥（養生月覽）

至日、於北壁下、厚鋪草面臥、以受元氣（遵生八牋卷六

四時調攝 十一月事宜

冬至日、取葫蘆、盛葱根莖汁、埋于庭中、夏至發開、盡爲

水、以漬金玉銀石青各三分、自銷、暴乾如飴、可代糧、久服神仙、名曰金液漿（農政全書卷二七 樹藝 月令通考卷

一三 十一月の條、ほゞ同文）

1 神仙。この二字、農政全書に缺く。

十一月之節、可以餌補藥、不可以餌、大熱之藥、宜早食、宜進宿熟之肉（養生月覽、邊生八牋卷六 四時調攝 十一月事宜。養餘月令卷一九 十一月 藥餌、ほゞ同じ）

臘月、取青魚臍陰乾、如患喉閉及骨鯁、卽以臍小許口中含、咽津即愈（養生月覽）

臘日以後、叟嫗各隨其儕爲藏彊、分爲二曹、以較勝負（說郛局六九）

療忽生瘻疾一二年者、以萬州黃藥子半斤、須緊重者爲上、如輕虛、即是佗州者、力慢、須用一倍、取無灰酒一斗、投藥其中、固濟瓶口、以糠火燒、一復時停騰、待酒冷卽開、患者時時飲一盞、不令絕酒氣、經三五日後、常須把鏡自照、覺銷卽停飲、不爾便令人須細也（政和證類大觀本草卷一四 黃藥）

蒜、多食、髮早白（爾雅翼卷五 釋草 葫）

益髮變白爲黑、金陵草煎方、金陵草一秤、六月以後收採、棟擇無泥土者、不用洗、須青嫩不雜黃葉、乃堪爛搗研、新布絞取汁、又以紗絹瀘令淳、盡內通油、器鉢盛之、日中煎五日、又取生薑一斤、絞叶白密一斤合和、日中煎、以柳木箆攪勿停手、令勻調、又置日中、煎之令如稀鶴、爲藥成矣、每旦日及午後、各服一匙、以溫酒一盞、化下如欲作、九日中再煎、令可丸大如梧子、依前法、酒服三十九、及時多合製爲佳、其效甚速（政和證類大觀本草卷九 魷脣）

附錄（日月不詳の佚文）

癩者、不可食醴魚（養生類纂卷一〇 人事部 痘忌）

魚）

凡衣服巾檻枕鏡、不宜與人同之（養生類纂卷一二 服章部 衣服）

衣服、不宜買而衣之（養生類纂卷一二 服章部 衣服）

豉粥、不可於霍亂後食（養生類纂卷一三 食餌部 粥）

麋肉、微補五臟、多食令人強房事、麋鹿同一淫藥、冬至一陽生、故麋角解利補陽也、不可合鯷生菜梅李同食（月令通考卷一三 十一月）

桃朱術、生園中、細如芹花、紫子作角、以鏡向旁敲之則子自發、令婦人帶之、與夫相和、五月收也（古今類傳卷二歲時 夏令）

地黃酒、用地黃一大升細切、糯米五斗、右相和、爛炊作

飯、攤如人體、以牛膝汗三升拌之、麴末五升、並於盆中熟、穢以湯一升、內不津器中泥封、春夏三七日、秋冬五七日熟（養生類纂卷一四 食餌部 酒）

右の外、政和證類大觀本草卷五 薑石の條及び本草綱目卷一〇 麥飯石の條に、「孫思邈の千金月令にも同じような記事があるが、この部分（大觀本草・本草綱目の當該箇所）の詳密には及ばない」ということが書かれている。

青魚、不可同葵蒜食、害人（養生類纂卷一七 鱗介部 青

千金月令輯本 第二部

(1)

第二部では醫方類聚採輯本千金月令の寫眞版を掲げる。このテキストは、明治二十四年、山田業精が、青山道純所藏本を借りて筆寫したもの、のち富士川游博士に藏せられ、現在は京都大學圖書館の所藏に歸している。本書の掲載を御承認下さった京大圖書館に深く感謝する。

(2)

醫方類聚採輯本の記事は、殆んどすべて時月に關する記載を失しているので、すぐには歲時記史料として利用しがたい憾みがあるが、これをもとの歲時記の姿に復元することを將來の課題として、一應、掲げることとした。もちろん、このまゝでも、養生延命に關する中國人の生活感情を知るのに役立つものが少くない。

(3) 欄外に、私の調べ得た限りで各條の卷數と部門とを頭注した。「不詳」と書いたのは未だ検索できなかつたものである。また原書との異同などについても、若干の頭注を加えた。

一二三一～一五一頁に掲載されていた「千金月令」の影印は省略しています。

同資料は京都大学電子図書館のサイトで写真公開されていますので、そちらをご参照ください。

二 齊人月令輯本

地黃粥、以補虛、右取地黃四兩、搗取汁、候粥半熟、卽下之、以縣裹椒一百粒生薑一斤、投粥中、候熟出之、下羊腎

一具、去脂膜、細切如韭葉大、加少鹽食（養生類纂卷一三
食饌部 粥の條、この文を「齊人千金月令」として掲

ぐ。養生月覽には正月に地黃・防風・紫蘇三種の粥を食す

ことが見えるから、この文を正月の位置に配することとした）

春分、不殺生、不弔疾、君子齋戒、衣夾衣導引、不食生冷
(太平御覽卷二〇 時序部 春分)
是月(二月)上辰日、採枸杞、四月上巳日、服之(遷生
八牋卷三 四時調攝 三月時宜)

防風粥、以去四腥風、右取防風二大分、煮取汁作粥（養生
類纂卷一五 食饌部 粥 齊人千金月令）

紫蘇粥、以去擁氣、右取紫蘇子、熬令黃香、以水研濾、取
汁作粥（養生類纂卷一三 食饌部 粥 齊人千金月令）

松花酒、取糯米、淘百遍、以神麴和、凡米一斗、用神麴五
兩、春月取松花精長五六寸者至一尺餘鼠毛者各三兩枝、細
剉、一升蒸之、綢袋盛以酒一升、浸取五日堪服、一服三
合、三服、九服神仙（養生類纂卷一四 食饌部 酒 齊人
千金月令）

凡立春日、食生菜、不可過多、取迎新之意而已、及進漿⁽¹⁾
粥、以導和氣（太平御覽卷二〇 時序部 春。歲時廣記卷
八 食春菜及進漿粥の條）

採何首烏赤白各半、米泔水浸一宿、同黑豆飯、鍋上蒸熟晒
乾、去荳爲末、或加茯苓三分之一、煉蜜爲丸、酒下一二
錢、百日後、百疾皆除、長年益壽多子、忌猪食肉魚鱉蘿

1 漿粥。古今類傳 立春の条、「醫粥」に作る。

薑、何首烏、內有生如鳥獸、并山石形象極大者、乃珍品也、服之成仙（遵生八牋卷三 四時調攝 三月事宜）

三月四月中、採山谷內新長柏葉松針或花萼長三四寸枝陰乾、細搗爲末、煉蜜爲丸、如小豆大、常用月之朔望、清晨燒香、東向持藥八十一丸、咒曰、神仙真藥、體全自然、服藥入腹、益壽延年、塗湯或酒下、服訖、忌食五辛、若要長肌肉、加大麻巨勝、要心力壯健、加人參茯苓、用七月七日露水和丸、尤佳（古今圖書集成卷三三 歲功典 季春部彙考）

四月八日、不宜殺草木、始服生衣、宜進溫酒、服溫藥、是月也、無壞麝卯、無伐大樹、是月也、宜以夙興如（太平御覽卷二二 時序部 夏）

重陽之日、必以饌酒登高、眺迥爲時讌之遊賞、以暢秋志、酒必采茱萸甘菊以泛之、既醉而還（太平御覽卷三二 九月九日・歲時廣記卷三五 爲時讌・事類賦卷五 歲時部 秋）
棗湯法、右取大棗、除去皮、核中破之、於文武火上翻覆炙令香、然後煮作湯（養生類纂卷一四 食饌部 湯水 齊人千金月令。養生月覽、これを十月に懸く）

是日、謂之竹醉、又謂竹迷、栽竹多盛（編目新書 五月十三日）

癩者、不可食醴魚（養生類纂卷一〇 人事部病忌 齊人千金月令）

竹葉粥、右取淡竹葉一把梔子兩枚切熬、以水煎、澄取清、卽細浙梗米、研取泔、下米竹葉梔子汁中、旋點泔煮之、候

凡衣服巾櫛枕鏡、不宜與人同之（養生類纂卷一二 服章部 衣服 齊人千金月令）

熟下塙花進之、時或失理則病疾、宜以防之（養生類纂卷一 三 食饌部 粥 齊人千金月令。養生月覽は七月に竹葉粥を食うべきことを記している）

衣服、不宜買而衣之（養生類纂卷一二 服章部 衣服 齊人千金月令）
熟、穢以湯一升、內不津器中、泥封、春夏三七日、秋冬五
七日熟（養生類纂卷一四 食饌部 酒 齊人千金月令）

豉粥、不可於霍亂後食（養生類纂卷一三 食饌部 粥 齊人千金月令）
青魚、不可同葵蒜食、害人（養生月覽卷一七 鱗介部 青
魚 齊人千金月令）

地黃酒、用地黃一大升細切、糯米五斗、右相和、爛炊作
飯、攪如人體、以牛膝汗三升拌之、麴末五升、並於盆中
蒜、多食、髮早白（爾雅翼卷五 葫 齊人千金月令）

三 金谷園記輯本

屠蘇、藥酒名、正朝以桃皮及諸藥、於酒中屠蘇和而飲之、先從小起、一人飲、一家無病、一家飲、一里無病（年中行事抄）

〔參考〕

金谷云、一人飲、一人無病、一家飲、一里無病（年中行事秘抄

正月 屠蘇白散事）

金谷園記云、屠蘇白散、一人飲、一家無病、一家飲、一里無病（一條兼良 江次第鈔 第一 正月甲）

正月七日、以七種菜作羹、食之、令人無萬病（年中行事秘抄・師光年中行事）

正月者、立春之氣節也、本爲政月、秦始皇以此月生、仍名政、遂改爲正月（年中行事秘抄）

武帝、嘗以正月殺梟爲羹、以賜群臣食之、云、使天下之人、知殺絕其惡類者也（歲華紀麗卷一）

西方舍衛國淨飯王之子悉達多、以四月八日⁽¹⁾降生也、前生時、會爲摩納仙人、將金錢、於婦人邊買花、供養燃燈佛、

漢書志曰、三月巳^午、禊飲於東流上、自怡樂也、宋書云、自魏以後、皆用三月三日、至今不用上巳、三月三日、四人並出水渚沙洲之間、或於國宅池沼之內、爲流杯曲水之飲、取出麵菜汁、和蜜爲料、以厭時氣（年中行事秘抄 曲水宴事）

清明之氣節也、萬物皆出於土、清潔而明淨、明蹴鞠毬也、起於戰國、今人相承、清明之日爲之（年中行事秘抄 三月）

釋迦如來、以四月八日降生、前生爲摩納仙人、將金錢、於婦人邊買花、供養燃燈、佛約爲夫婦、仙人者佛也、婦人者羅喉也、今人、每至四月八日、買花供養、并浴佛者、四月八日、諸寺各設供養會、湯浴佛忌、以香花禮拜、出錢以灌佛、案灌佛經云、日一灌至七灌、滅無間罪（年中行事秘抄 四月八日灌佛事）

約爲夫婦、并擔不忘佛道、復生共爲夫婦、其摩納仙人者佛也、婦人卽羅睺羅母耶輸陀羅是也、太子年十九、踰城入雪山、六年苦行、修無上道、成等正覺、號釋迦牟尼佛、今人每至四月八日、賈花供養、并浴佛像者、其往者之事也（明文鈔 帝道部下。師光年中行事 四月八日 灌佛事の條、右より簡略）

- 1 降生。原文、「降生」とあるは誤。師光年中行事によつて正す。
- 2 復生。原文、「復生」とあるは誤。師光年中行事による。
- 3 佛也。師古年中行事によつて補う。

隋文帝開皇十八年五月、禁畜貓鬼蠱毒厭昧野道者、獨孤后之弟延州刺史陁有婢、事貓鬼、能使之殺人、曾后與楊素妻俱有疾、醫皆曰、貓鬼疾也、⁽¹⁾上意施使婢所爲、令高熲等雜治之、具得其實、詔夫婦皆賜死（月令通考卷一三 五月）

- 1 上意施使婢所爲。古今類傳卷一 仲夏、「上意施取爲」に作る。

競渡、金谷園記云、今之競渡 布奈久 良信 楚國風也（和名類聚抄 卷四 雜藝之類第四十四）

九月九日、月與日俱應陽數、故曰重陽、陽九陰六也（師光年中行事 九月節會事）

十一月十日、拔白髮永不生（月日紀古 十月初十日）

乞巧奠事、金云、七月七日、二星歡會之夜也、俗人候之、或有天漢中奕々白氣、光輝五色、以爲徵應、便拜而願、乞

冬至事、金谷云、朝賀之禮、如元日之儀、又云、魏晉文曰、

富壽、乞子孫、若有所乞巧、唯得求一、不得兼求、三年乃得、自古有其驗（年中行事秘抄 七月。師光年中行事、ほど同じ）

十五日、盂蘭盆事、金云、乃有去世功德、蓋因大目連葱並青提夫人在世時、廣造衆惡誑惑、目連死墮地獄受飢、唯到七月十五日、衆僧參拜二字分空白（年中行事秘抄 七月。師光年中行事秘抄 七月）故此寄餉（年中行事秘抄 七月）

書司供菊事、金谷云、桓景隨費長房、謂桓景曰、君家九月九日、當有大災、登高作絳囊、盛茱萸、繫臂、及採茱萸、以插頭、折菊花、泛酒、祭享飲之、攘此災、果如言（年中行事秘抄 九月。師光年中行事、ほど同じ）

九月九日、月與日俱應陽數、故曰重陽、陽九陰六也（師光年中行事 九月節會事）

十一月十日、拔白髮永不生（月日紀古 十月初十日）

冬至事、金谷云、朝賀之禮、如元日之儀、又云、魏晉文曰、

百寮稱賀、其儀亞於歲朝（年中行事秘抄 十一月 師光年

中行事 冬至事）

之氣（年中行事抄）

追儺事、金谷云、陰氣將絕、陽氣始來、陰陽相激、化爲疾癟之鬼、爲人家作病、黃帝使方相氏黃金四目、身著朱衣、手把梓柶、口作儺々之聲、以驅疫厲之鬼

昔、高辛氏子、十二月晦夜死、其靈成鬼、致病疾、奪浪人

祖祭物、驚祖靈、因之以桃弓葦矢、逐疫鬼、靜國家、又河邊并道路、散供之、解除、無除咎矣（年中行事秘抄 十二月。師光年中行事、ほゞ同文）

禮云、季冬之月、磔出土牛、以示農耕之早晚也、若立春在十二月望、則策牛人近前、示其農早也、立春在十二月晦及正月初、則策牛人當中、示其農平也、若立春在正月望、則策牛人近後、示其農晚也（年中行事抄）

昔、顓頊帝時、宮中生一子、性好著浣衣、人作新衣與之、卽破裂以火燒穿屠、宮人共號窮子、其後以正月晦日死、人葬之曰、今日送窮子也、因此相承、號送窮也（歲華紀麗卷

一 晦日送窮）

歲終大儺之時、振疫之子有萬僮、皆執丹斧彫戈、以驅除癟

四 保生月録輯本

洗葛衣、用梅葉、揉碎洗之、經夏不脆、忌用木盆則黑、以磁器洗之（邊生八牋卷四 四時調攝 四月事宜）

五月初一日、取枸杞菜、煎湯沐浴、令人光澤不病不老、午時亦可（月令通考卷六 五月）

其日、取螢火虫二七枚、燃白髮、能黑（月令通考卷六 五月）

五月五日、取青松、搗石灰、至午時、丸作餅子、牧畜、凡金刃所傷者、醋末上在痛處、一二日亦可（月令通考卷六 五月）

七月七日、曬曝革裘、無蟲蛀（歲時廣記卷二六 七夕、曝革裘。御覽卷三一 時序 七月七日、養生月覽には、末尾の「蛀」の字を缺く）

楊梅、多食、令人傷熱、亦能損齒及筋骨（月令通考卷六 五月）

¹ 蜜雀肉。月令通考卷六 五月、「蜜及雀肉」に作る。

是月十一日、天倉開日、宜入山修道（月令通考卷六 五月。邊生八牋卷四 四時調攝 五月事宜、養餘月令卷九 五月經作、編日新書五月十一日、「天倉開日」の「日」の一字を缺く）

龍魚河圖云、七月七日、取赤小豆、男呑一七、女呑二七、令人畢歲無病（太平御覽卷三一 時序部 七月七日。歲時廣記卷二七 七夕 呑小豆の條は「河圖記」と記す。）

合烏藥、是七月七日、取烏鵲血、和三月三日桃花末、塗面及遍身三二日、肌白如玉、此是太平公主法、曾試有効（太平御覽卷三一 時序 七月七日。歲時廣記卷二七 七夕 和桃花、ほゞ同じ）

冬至日、一陽方生、省言語、宜養元氣、勿勞其體、其月、腎氣正王、心肺衰、宜助肺安神、補理脾胃、無乖其時、勿暴溫煖、切慎東南賊邪之風、犯者、令人多汗面腫腰脊強痛四支不通（月令通考卷一三 十一月）

五 金門歲節記輯本

洛陽人家、正旦、造雞絲蠟燕粉荔枝、更相餽送（歲時廣記⁽¹⁾

卷五 元旦 粉荔枝）

¹ 雞絲。萬華谷後集卷四 元日 造粉荔枝の條、「絲雞」を作り、編目新書正月一日、「絲鷄」に作る。

王武子好馬、非馬不行、元日則柳葉金障泥、上元則滿月
鞚、清明則剪水鞭、重午則籠矯鞍、中秋則玉櫂總絡頭、重

九則蟬兒韁、春秋社則塗金韁、冬至則嘶風韁、除日則藥王
鞍、每節日則喂馬以明紗豆薔薇草（古今類傳 正月初二）

祠太乙史造大蛾（萬花谷卷四 上元 金門事節とあり）

正月十五日、爲火蛾兒合鬧、蛾雪柳是也（錦字箋卷三 時
令 一月 金門事節）
⁽¹⁾ 合鬧以下。古今事類全書前集卷七 天時部、月令通考卷一 正月、これ
を缺く。

刻菖蒲爲人或葫蘆形、帶之辟邪（編目新書 五月五日）

寒食、裝萬花輿、煮楊花粥（歲時廣記卷一五 寒食 裝花
輿。群書通要卷六 節序門）

洛陽人家、端午、作朮羹艾酒、以花綵樓閣 插鬢⁽²⁾、賜辟
爐（錦字箋卷三 時令）

¹ 鬚。四時事宜 五月、古今合壁事類備要卷二六端午、「鬚」に作る。
² 賦。古今合壁事類備要、「贈遺」に作る。

目卷五 神水の條。雲仙雜記卷七は、「丸」を「圓」に、「積」
を「塊」に作る。

重午日、午時、有雨則急斫一竿竹、竹節中必有神水、瀝取
獺肝爲丸、治心腹積聚病（萬花谷後集卷四 端午。本草綱
目卷五 神水の條。雲仙雜記卷七は、「丸」を「圓」に、「積」

以艾爲虎形、至有如黑豆大者、或剪綵爲小虎、粘艾葉戴之

(編日新書 五月五日)

類林卷七上 節序、雲仙雜記卷五)

七月乞巧、使蜘蛛結萬字 (歲時廣記卷二六 七夕 結萬字)

洛陽人家、臘日、造脂火餽 (歲時廣記卷三九 臘日 造火餽)

洛陽人家乞巧、造明星酒 (格致鏡原卷三三 飲食類酒名)

1 人家。紀纂淵海卷二 七夕、「人間」に作る。

洛陽人家、除夜、則以銅刀刻門、埋小兒硯、點水盆燈 (歲時廣記卷四〇 歲除 照水燈)

七夕、裝同心餚 (歲時廣記二六 七夕 同心餚)

賈島常以歲除取一年所得詩、祭以酒食、曰勞吾精神、以是補之 (歲時廣記卷四〇 歲除、祭詩章、紀纂淵海卷二 歲除 雲仙雜記卷四)

唐人、九月九日、造菊花糕相餉 (群書通要卷六 節序門重陽類)

洛陽人家、重陽、造迎涼脯羊肝餅、及佩瘞水符 (歲時廣記卷三四 重九 迎涼脯、萬花谷後集卷四 重九)

(補遺)洛陽人家、正旦、造絲雞葛、燕粉荔枝、正月十五日、造火蛾兒、食玉梁饑、寒食裝萬花輿、煮楊花粥、端午朮羹艾酒、以花絲樓閣插鬚、贈遺辟瘟扇、乞巧、使蜘蛛結萬字、造明星酒、裝同心膽、重九迎涼脯羊肝餅、佩瘞水符、冬至、煎鷄絲珠、戴一陽巾、除夜、銅刀刻門、埋小兒硯點水盆燈、臘日、造脂花餽 (雲仙雜記卷一)

註。マルをつけた部分は、前掲各條と相違するところ。

斐度、除夜、歎老迨曉不寢、爐中商陸火、凡數添也 (焦氏)

唐・五代歳時記資料の研究

六 四時寶鏡輯本

正月一日、貼畫雞戶上、懸葦索於其上、插符於旁、百鬼畏之（說鄂局六九）

東晉李鄴、立春日、命以蘆菔芹芽爲菜盤、相饋覘（群書通要卷六 節序門 立春、說鄂局六九）

立春日、食蘆菔⁽¹⁾春餅生菜、號春盤（歲時廣記卷八 立春作春餅、書言故事卷八）

1 蘆菔。月令通考卷一 正月、編日新書正月立春、說鄂局六九、この二字を缺く。

永元六年、初令伏閼盡日、注曰、伏日萬氣行、故盡日不干他事（說鄂局六九）

草木方曰、九月九日、採菊花、與茯苓松脂、久服之、令人不老（說鄂局六九）

十月朔、有司進煖爐炭（說鄂局六九）

漢儀、季冬之月、星迴歲終、陰陽已交、勞農夫、享臘以送故（說鄂局六九）

北方□□至寒食、爲鞶韁戲、以習輕趨、後中國女子學之（說鄂局六九）

四月八日、佛生日、京師各有浴佛齋會（說鄂局六九）

五月五日、集五絵繪、謂之辟兵（說鄂局六九）

高陽氏子、好衣弊衣食糜、正月晦日巷死、世作糜棄破衣、是日祝於巷、曰除貧也（歲時廣記卷一三 月晦 除貧鬼、古今事類全書前集卷六 天時部、五雜俎卷二 天部）

七 秦中歲時記輯本

金吾仗轡¹前引、有司皆避、爾雅云⁽²⁾卽幫牛也、此獸善抵觸、故雕其首于竿、加龍虎節、以油囊盛之而行（類說。紺珠集、やゝ異なる）

1 有司皆避。紺珠集、「百司皆由」に作る。
2 卽、紺珠集、この字を缺く。

〔参考〕南宋の趙升の朝野類要卷一 擊門の條に

宰相動止、謂下陰有²轡¹神²衛¹之、所以秦中歲時記言、宰相儀仗、有²類¹牛頭形²者¹卽是也、今之宰執出入、其金

吾、先以^レ物敲擊門臺¹、謂²報警轡¹神²也（學津討源本）
とある。

正月一日、曉漏以前、宰相⁽¹⁾三司金吾、以樺燭數百炬擁馬、如城、謂之火城

1 三司金吾。北宋の錢易の南部新書^丁に、別に出典は示さぬが、相似の文がある。それに従えば、「三司使、大金吾」とある。

2 如城。南部新書^丁によれば、「方布象城」に作る。

〔参考〕南部新書 己には
長安市里、風俗每至元日已後、遞餘食相邀、號爲傳座
とある。

探花宴、進士杏花園初會⁽¹⁾、謂之探花宴、以少後二人爲探花使、徧遊名園、若他人先折得名花、則二使皆被罰（類說、歲時廣記卷一 春 探花使。紺珠集ほど同じ）
1 初會。紺珠集、初宴に作る。

中和節、二月一日、中和節、百官農書進盡內出中和力尺、賜群臣（類說）
1 農。類說、「進」に作るも、新唐書李泌傳を參照して「農」に改む。

拾菜、二月二日、曲江拾菜、遊觀甚盛（類說。紺珠集 ほど同じ）

唐長安風俗、從正月二日起飲酒相邀、號爲傳坐（古今類傳
正月初一、月日紀古卷一 正月初二日）

寒食節、城市各鬪鷄走狗、寶典云、鬪鷄走狗、清明前後
(白眉故事卷九 歲時 清明類)

寒食內宴、宰執以酴釄酒（歲時廣記卷一五 寒食供良醞、類說ほど同じ）⁽¹⁾

1 宰執。類說、「宰相」に作る。

寒食節、內僕司車、與諸軍使爲繩轂之戲、合車轍道、兩頭打大概、張繩轂上、高二尺許、須繫榜定、駕車盤、轉轂輪于繩上、過不失者勝、落輪繩下者輸、裝飾車牛、賄物以千計（歲時廣記卷一六 寒食 繩轂戲）

慈恩寺、有裴舜白牡丹詩曰、長安遊子惜春殘、爭賞新開紫牡丹、別有玉杯承露冷、何人起就月中看（紺珠集。類說ほど同じ）⁽¹⁾

1 遊子。類說、「豪家」に作る。

2 賞。紺珠集、「嘗」に作るは誤まり。

3 何。類說、「無」に作る。

紫筍茶、清明、湖州進紫筍茶（類說、山堂肆考卷一〇 宮集）

上巳、錫宴曲江、都人於江頭禊飲、踐踏青草、曰踏青（三體詩箋注 鄭谷 曲江春草詩、陝西通志 風俗、時令）

進士多貧士、太和八年、放進士榜、多貧士、無名子作詩曰、乞兒還有大通年、二十三人橈杖全、薛庶淮前騎瘦馬、范鄰依舊蓋鋪毡（類說。紺珠集、ほど同じ）⁽¹⁾
 1 曰。類說、この一字を缺く。
 2 通。說郛卷七四、「適」に作る。
 3 餉。紺珠集、「番」に、說郛「餉」に作る。

四月一日、內園進櫻桃、薦寢廟訖、頒賜各有差（古今圖書集成 嘗功典 孟夏部紀事。月日紀古卷四上ほど同じ）

櫻桃厨、四月十五日、自堂厨至百官厨、通謂之櫻筍厨（類說、萬花谷、能改齋漫錄卷一五）、公餽之盛、常日不同（說郛卷六九）⁽¹⁾

櫻桃厨、四月十五日、自堂厨至百官厨、通謂之櫻筍厨（類說、萬花谷、能改齋漫錄卷一五）、公餽之盛、常日不同（說郛卷六九）⁽²⁾

端午前二日、東市謂之扇市、車馬於時特盛（紺珠集。類說、「於時」の二字を缺くのみ。）
 進士下第、當年七月、復獻新文求拔解、故語曰、槐花黃、舉子忙（說郛卷七四。說郛卷六九。紺珠集は若干誤脱があ

1 四月十五日。說郛卷六九、「四月己後」に作る。南部新書乙、同様。
 2 櫻筍厨。南部新書、櫻筍厨に作る。

る)

(参考) 「槐花黃、舉子忙」の話の理解を便にするために、南部

新書乙の關係記事を掲げておく。

長安舉子、自六月已後、落第者不出京、謂之過夏、多借靜
坊廟院及閑宅居住、作新文章、謂之夏課、亦有十人五人醵
率酒餚、請題目于知已朝達、謂之私試、七月後、投獻新課
并于諸州府解、人爲語曰、槐花黃、舉子忙

王維、重陽日、應制詩云、四海方無事、三秋大有年、無窮
菊花節、長奉柏梁篇（紺珠集、類說）

吏部四拗、初冬、納文書、却謂之選門閉、四月、秋省事

謂之選門閉、選人各在令史前、謂之某家百姓、狀在判後、
又却須粘在判前、因名四拗（紺珠集、類說）
(参考) 南部新書乙に
吏部有四拗、冬納文書之始、却謂之選門閉、四月秋省事
畢、反謂之選門閉、選人各在令史門前、謂之某家百姓、南
場判後、狀却黏在判前

冬至、賜百官辛盤、謂之借春（類腋卷七 天部）

歲除日逐儻、皆作鬼神之狀、內二老人爲儻翁儻母（類說。
紺珠集、やゝ脱字あり）

八 輯下歲時記輯本

元日、御樓御殿、發號施令、慶賜遂行（月令輯要卷一 正月令。古今圖書集成歲功典 元旦）

此月、戶部奏、大閱天下貢物於都堂、其日放朝、宰相相與百官、皆赴戶部、宴饌一時特盛、開元中、曾以大閱一日貢物、賜李林甫、九州任上、盡歸人臣之家、國史書其事也

（太平御覽卷二十七 時序部 冬。天中記卷五 歲時）

〔参考〕この條、何月に懸くべきかを詳かにせぬが、說郛局六九に従い、一應、正月に配した。

唐朝、清明、取榆柳之火、以賜近臣、順陽氣也（古今事類全書 前集卷八 天時部。群書通要卷六 節序門。三體詩箋注增注 崔魯 春日長安卽事）

先天初、上御安福門觀燈、令朝士能文者爲踏歌、聲調入雲（群書通要卷六 節序門 上元類。事文類聚卷六 脫字あり）
1 観灯。說郛局六九は、この下に、「大常作歌舞、出富歌舞」の十字あり。

二月一日、爲中和、德宗方置此節（天中記卷四）

寒食、鈔火後、鑽火、賜宰臣以下酴醿酒（通雅卷三十九 飲食）

1 酔醿酒。南部新書 乙 に「即重釀酒也」と注せられている。

長安、每歲清明、內園官小兒、於殿前鑽火、先得上進者、賜絹三疋金椀一口（歲時廣記卷一七 清明 進新火。事林廣記卷三 節令門）

1 官。南部新書 乙 は「宮」に作る。また群書通要卷六 節序門 清明類は「令小兒」に作る。

2 金椀一口。群書通要「金錢」に作る。

清明、都人並在延興門、看人出城灑掃、車馬喧闐（歲時廣記卷一七 清明 看車馬）

1 説郭肩六九、「内人」に作る。

清明、新進士開宴、集於曲江亭、既撤饌、則移樂泛舟、又有月燈閣打毬之會（歲時廣記卷一七 清明 奕進士）

三月上巳、有錫宴群臣、卽在曲江、傾都人物、于江頭禊飲踏青、豪家縛棚相接、至于杏園、進士局在亭子上、宏詞拔萃、宴在池南岸、內學士駙馬等張建封宴、元巳曲江、特命宰相、同榻入食（歲時廣記卷一八 上巳 禮曲江）

開元中、都人遊賞於曲江、莫盛於中和上巳節、按西京雜記、朱雀街東第五街、皇城之東第三街、昇道坊龍華尼寺南、有流水屈曲、謂之曲江、此地在秦爲宜春苑、在漢爲樂遊原（歲時廣記卷一三 中和節 遊曲江）

長安子女、遊春野步步遇名花則設席藉草、以紅裙遞相掩掛、以爲宴幄、其奢侈如此（歲時廣記卷一 春 掛裙幄）

1 遷相。この二字、天中記卷四 歲時の條によつて補う。

伏日、賜宰相學士醴汁、京尹公主駙馬蜜麩及漿水（歲時廣記卷二五 三伏節 賜醴汁）
四月十五日、自堂厨至百司厨、通謂之櫻筍厨（歲時廣記卷二夏 櫻筍厨）

七夕、俗以蠟作嬰兒形、浮水中、以爲戲、婦人宜子之祥、謂之化生（三體唐詩箋注 薛能 吳起の詩注）
〔参考〕この文は三體詩箋注には、「唐歲時記事」として引用され、秦中歲時記・輦下歲時記のいづれかを詳かにしないが、小林太市郎氏は、陝西通志 風俗 歲時の條に「唐輦下歲時記事」よりとして、この文を引いていることを指摘し、輦下歲時記事は輦下歲時記のことであるうとしている（小林氏「七夕と摩暎羅」支那佛教史學四ノ三）

（九月）九日、宮掖間、爭插菊花、民俗尤甚（歲時廣記卷三四 重九 簪菊花）

都城重九後一日、宴賞、號小重陽（古今圖書集成 歲功典重陽部紀事）

〔参考〕月令粹編卷一四 九月初十日の條はやゝ詳しく、次の如く記している。

京師士庶、多于重九後一日再會、謂之小重陽

吟、六街鼓絕、行人歇、九衢茫茫、空有月、有和者云、九
衢生人何勞勞、長安土盡槐根高（說鄂局六九）

都人至年夜、請僧道看經、備酒果送神、帖竈馬於竈上、以
酒糟抹於竈門之上、謂之醉司命、夜於竈裏點燈、謂之照虛
耗（說鄂局六九）

俗說、務本坊西門是鬼市、或風雨晦暝、皆聞其喧聚之聲、
秋冬夜、聞賣乾柴云、是枯柴之精也、又或中秋望夜聞鬼

明皇畫寢、忽夢虛耗二鬼奴、呼武士、俄有太人、頂帽衣
袍、捉鬼擊而啖之、問其姓氏、乃終南山進士鐘馗也、今人
掛鐘馗、乃食虛耗也（事林廣記卷三 節令門。萬花谷卷四
除夜の條、ほど同じ）

九 諸書所見四時纂要引用文

(1) ここでは諸書に引用された四時纂要の文が、山本氏本の何葉何行にあるかを明かにする。a・bは夫々表・裏を示す。

(2) また、諸書引用の文と、山本氏本との間の相違の著しいものは、その点を注記する。山本氏本（＝至道二年施元吉本）と、他のテキスト（たとえば天禧四年官版）との相違を明かにするためである。

(3) △印をつけたのは一部山本氏本と不一致の点のあるもの。

元旦值甲、米賤人民疫、值乙、米麥貴人病死、值丙、四十日旱入安、⁽¹⁾一云、四月旱、值丁、縣綿六十日貴、值戊、粟

魚塙貴、⁽²⁾又旱四十五日、值己、稻貴蠶凶、多風雨、值庚、金銅貴、⁽³⁾禾熟、民多病、值辛、麻麥貴、⁽⁴⁾禾大收、值壬、米

麥賤、絹布大豆貴、值癸、禾災、人疫、多雨（歲時廣記卷七 元旦 占日干）……〔2b・6行、正月、月内雜占〕

1 一云、四月旱。山本氏本、「二云」に作る。

2 粟魚塙。事林廣記卷之五「元旦雜占」及び山本氏本、「粟麥魚塙」に作る。

3 金銅。事林廣記、「鐵」に作る。

4 5・6禾。山本氏本、「穀」に作る。

歲旦、投麻子二七粒小豆二七粒於井中辟瘟（醫方類聚卷二

傷寒門）……〔6a・4行〕

以冬至日、數至正月上午日、滿五十日、人食（足）長一日、
卽益一升？卽餘一月食、少一日、卽少一月食也、此最有據（歲時廣記

正月朔旦、宜受符禁（歲時廣記卷七 元旦 受符禁）……〔6 a・5行〕

1 符禁 山本氏本、「符錄」に作る。

正月望日、殘餚糜、熬焦和穀種之、能辟蟲（古今圖書集成
歲功典 上元部雜錄。月令萃編卷四、月令輯要卷五、ほ
ゞ同文）……〔8・11行〕

七日、上會日、可齋戒早起、男吞小豆七枚女三七粒、一年
不病（醫方類聚卷五二 傷寒門）……〔6 a・9行〕

△初七日、爲上會日、可設齋醮大吉（遵生八牋卷三 四時
調攝 正月事宜。養餘月令卷一 正月）……〔6 a・9行〕
1 醮大吉 山本氏本、この三字を缺く。

△是月四日、寅日、宜拔白（遵生八牋卷三 四時調攝 正
月事宜、養餘月令卷一 正月。歲時廣記卷一三 正月晦 拔
白髮、養生月覽、ほゞ同文）……〔9 a・3行〕 たゞし、山
本氏本には「寅日」の二字は無い

上元日、可齋戒、誦黃庭度人經、令人資福壽（養生月覽）
……〔6 b・2行〕

元旦、取鵲巢、燒之著廁、辟兵極效（歲時廣記卷五 元旦
燒鵲巢。養生月覽、ほゞ同じ）……〔8 b・8行〕

甲子日、拔白、三十日、服井花水、令鬚髮不白（遵生八牋
卷三 正月事宜、養餘月令卷一 正月、歲時廣記卷一三
拔白髮、養生月覽、ほゞ同文）……〔9 a・1行〕

正月四日、拔白、永不生、凌晨拔、神仙拔白日、他月倣
此、拔白髭髮（養生月覽）……〔9・3行〕
1 拔白髭髮 山本氏本、割注に作る。

廁前草、正月初上寅日、燒中庭、令人一家不著天行（醫方
類聚卷五二 傷寒門。養生月覽）……〔8 b・9行〕

正月八日、沐浴、去災、神仙沐浴日（養生月覽）……〔9
a・4行〕

正月三日、賈竹筒四枚、置家中四壁上、令田蠶萬倍、錢財

正月旦、雞鳴時、把火遍照五果及桑樹上下、則無蟲、時年
有桑果災生蟲者、元日照者、必免災（養生月覽）……〔9 b
・3行〕

元旦、日未出時、以斧斲駁錐斫棗李等樹、則子繁而不落、
謂之嫁樹、晦日同、嫁李則以石安樹間（歲時廣記卷五 元
旦 嫁棗李）……〔9 b・4行〕

立春日、貯水、謂之神水、釀酒不壞（歲華紀麗正月注、太
平御覽卷二〇 立春 時序部）……〔9 b・9行〕

正月、雜木門、俗云、一日之計、在一晨、一年之計、在一
春（箋注簡齋詩集卷一四 早起注）……〔12 a・4行〕

△是月初八日、十四日、二十八日、拔白、鬚髮良（邊生八
牋卷三 四時調攝 二月事宜、養余月令卷三 二月）……
〔山本氏本、「八日拔白」とあるのみ。他は對應記事が見當
らぬ〕

二月上卯日、沐髮愈疾、南陽太守目盲、太原王景有沉痼、
用之皆愈（養生月覽）……〔19 b・4行〕

△桃杏花、二月丁亥日收、陰乾爲末、戊子日、和井花水
服、方寸七日三服、療婦人無子、大驗（養生月覽、養餘月
令卷四 二月、やゝ異り「七日」を「七日」に作り、「大驗」
を「兼美容顔」を作る）……〔19 a・11行〕

二三月內、天晴日、取薯蕷、洗去土、小刀子刮去里皮、後
又削去第二重皮約厚一分已來、於淨紙上著篩中曬、至夜收
放紙籠內著微火養之、至來日又曬、以乾爲度、如未乾、天
二月乙酉日、日中北首臥、合陰陽、有子卽貴子也（養生月

二月上丑日、取土泥蠶室、宜蠶（養生月覽）……〔19 b・3
行〕

二月上辰日、取道中土、泥門戶、辟官事（養生月覽）……
〔19 b・3行〕

色陰、即火焙、便爲乾薯藥入丸散用其第二重白皮、依前別
瞭、⁽⁴⁾焙取爲麵、絕補益（養生月覽）……〔22a・3行〕

1 著篩中瞭。山本氏本、「著安竹箔上」に作る。

2 收放紙籠内。山本氏本、「收於焙籠内」に作る。

3 以乾爲度、如未乾。天色陰即火焙。山本氏本、「如陰即以微火養、以乾爲度、如久陰即火焙乾」に作る。

4 焙取爲麵。山本氏本、「焙乾取爲麵」に作る。

二月、取百合根、曝乾、搗作麵、細篩、絕益人（養生月覽）〔23b・6行〕

1 太平公主秘法。山本氏本、割注に作る。

續命湯、主半身不遂、口渴、心昏、⁽¹⁾昏角弓反張不能言方
麻黃六分去節獨活六升升麻五分乾葛五分零羊角屑四分桂心四分

防風六分甘草四分

右件藥、各切碎用水二大升、先煎麻黃六七、沸掠去沫、次
下諸藥、浸一宿、明日五更、煎取八大合、去滓分爲兩服、
溫溫服畢、以衣被蓋臥、如人行十里、更一服、準前蓋臥、
晚起辟風、每年春分後、隔日服一劑、服三劑即不染天行傷
寒及諸風邪等疾、忌生葱・菘菜・生冷等物（醫方類聚卷一
九 諸風門）……〔24b・11行〕

1 昔。山本氏本、この二字なし。

三月三日、採桃花未開者、陰乾百日、與赤櫻等分、搗和臘月猪
脂、塗禿瘡神效（養生月覽）……〔27b・4行〕

△是月十一日、十三日、拔白、永不生、又初一、初十（月
令通考卷四 三月）……〔山本氏本27b・9行に、「十三日、
拔白」とだけ見え、他に對應の文が無い〕

△是月三日、收桃花葉、瞭篩乾搗篩并花水服一錢、治心痛（養
生月覽）……〔27b・6行〕

△是月十一日、十三日、拔白、永不生、又初一、初十（月
令通考卷四 三月）……〔山本氏本27b・9行に、「十三日、
拔白」とだけ見え、他に對應の文が無い〕

△是月一日、取黍穀於月德上取土脫壘一百二十口安宅福德上、
令人致福（養生月覽）……〔27b・7行〕

常繫獮猴於馬坊內、辟惡消百病、令馬不着疥（北宋哲宗頃

陳師道撰 后山詩註卷二 猴馬 任淵注)……〔31a・5行〕

1 不着疥。山本氏本、「不患疥」に作る。

1 沐。山本氏本、「沐髮」に作る。

清明前二日、夜鷄鳴時、取炊湯澆井口飯甕、四時、辟馬蚊

百蟲(歲時廣記卷一七 清明 辟蚊虫)……〔32b・10行〕

取大甲者如崑崙耳者、酒煮蜜入諸香中用(紀纂淵海卷九一
香藥部 香)……〔33a・6行〕

1 酒煮以下。山本氏本は、これ以下が、より詳密である。

(1)四時辰雨、皆爲蝗蟲、大雨大蟲、小雨小蟲、二日雨、百草

旱、五穀不成、三日雨、小旱、風從西來、麻吉、四日雨、

五穀貴、五日六日雨、有旱處、四日至七日風者、大豆吉、

八日微雨、熟、俗云、八日雨、斑闌、高低田可憐、此月、

自一日至十四日惡風者、皆不可種豆(歲時廣記 卷二 夏

占蝗旱)……〔35a・10行〕

1 四時辰雨。山本氏本、「此月凡辰雨」に作る。
2 田。山本氏本、「盡」に作る。

(1)四月七日沐、令人大富(養生月覽)……〔37b・8行〕

四月九日、日沒時浴、令人長壽(養生月覽)……〔37b・9行〕

四月十六日、拔白、⁽¹⁾則黑髮(養生月覽)……〔37b・9行〕
1 則。山本氏本、「生」に作る。

四月也、是謂乏月、冬穀既盡、宿麥未登、宜賑乏絕救飢窮、九族不能自活者救之、無固蘊蓄而忍人之貧、貪貨殖之宜、忌種福之利、君子弗取也(太平御覽卷二二 時序部
夏中)……〔39b・1行〕

1 忌。山本氏本、「忘」に作る。

痢藥阿膠散子

當歸^{剉碎}黃連^{去毛}清淨^{酒熬}訶子^肉取^{慢火炙令}甘草^{泡起即止}阿膠^{漿水浸}炙之

右件五味各等分、細搗羅爲末

黃丹^{三兩}白礬^兩二味相和細研、入瓶子內、以炭火斷之、通炙、良久放令、即出細併之、此藥與前草藥等和合爲散、每服三錢^{水?}七米飲調下、若要作丸子、以麪糊和、和爲丸、丸如豌豆大、一服十九丸、此散兼治一切瘡及小兒瘡、以人乳調

塗餘瘡乾用（*醫方類聚卷一三八 諸癆門*）……〔42 b・11行〕

1 令。山本氏本、「冷」に作る。

2 併。山本氏本、「研」に作る。

五月五日、午時採艾、治百病（*養覽月覽*）……〔42 a・4行〕

端午日、以艾蒜爲人、安門上、辟瘟（*醫方類聚卷五二 傷寒門*）……〔42 a・6行〕

端午日、收蜀葵赤白者、各收陰乾、治婦人赤白帶下、爲末酒服、赤者治赤、白者治白、大妙（*歲時廣記卷二二 端午* 收蜀葵。養生月覽、ほど同じ）……〔42 a・7行〕

端午日、收蜀葵赤白者、各收陰乾、治婦人赤白帶下、爲末酒服、赤者治赤、白者治白、大妙（*歲時廣記卷二二 端午* 收蜀葵。養生月覽、ほど同じ）……〔42 a・7行〕

金蒼藥、五月午日、日未出時、採百草頭、唯藥苗多即尤佳、不限多少、搗取濃汁、又取石灰三五升、以草汁相和、搗脫作餅子、曝乾、治壹切金刀傷瘡、血立止、兼治小兒惡瘡（*醫方類聚卷一八四 金瘡門*）……〔42 a・10行〕

〔48 b・2行〕

種麻熟耕地、從橫七遍已上、生則無葉（*爾雅翼卷八 桑*）

……〔44 a・2行〕

〔1〕六月一日、沐、令人去疾穰災（*養生月覽*）……〔48 b・2行〕

1 本條、山本氏本、「禳鎮一日沐吉」とあり、令人以下なし。

是月、初一日・初七・初八・二十一日、⁽¹⁾沐浴、⁽²⁾去疾穰災（*邊生八牋卷四 四時調攝 養餘月令卷一二 六月*）……〔48 b・2行〕

五月午日、取葵子、燒作灰收之、有患砂石淋者、水調方寸

七、服之立愈（*醫方類聚卷一三二 諸淋門*。歲時廣記卷二

二 端午 燒葵子 ほど同じ）……〔42 b・2行〕

六月十九日、拔白、永不生（*養生月覽*）……〔48 b・3行〕

心痛藥、取獨頭蒜五顆・黃丹二兩、午日午時、搗蒜如泥、

相和黃丹爲丸、丸如鷄頭子大、曝乾、患心痛醋磨、壹丸服之（*醫方類聚卷九二 心腹痛門*）……〔42 b・3行〕

五月二十日、宜拔白（*養生月覽*）……〔43 b・3行〕

五月、君子齋戒、節嗜慾、薄滋味、是月五日・六日・十六日、別寢、犯之三年致卒（*養生月覽*）……〔43 b・4行〕

1 沐浴。山本氏本「沐」の字なし。

2 去疾穰災。山本氏本「令人去病除災」に作る。

夏季月、食露葵者、大嘔、終身不瘥（養生月覽）……〔48
b・4行〕

六月、勿食澤水、令人病鱉癥（養生月覽）……〔48
b・5行〕

1 食。山本氏本、「飲」に作る。

2 鱼。山本氏本、「鼈」に作る。

是月、勿飲山澗水、令人患瘕（邊生八牋卷四 四時調攝。
養餘月令卷一二 六月）……〔山本氏本には、このまゝの文
は無い。おそらくは、前條の文を邊生八牋が變改引用した
のであろう。〕

△收(1)大小麥、(2)於是月掃庭除、候地毒熱、衆手出麥薄攤、(3)取
蒼耳碎剉拌晒之、(4)至日西及熟收、可以二年不蛀、若再收、(5)
又復再晒、遲至秋後則有蟲（養余月令卷一二 六月）……
〔50 b・9行〕

1 收大小麥。山本氏本「煞大小麥」に作る。

2 「於」の上。山本氏本「今年收者」とある。

3 「是月」の下。山本氏本「取至清淨日」とある。

4 至日西。山本氏本「至未時」とある。

5 「再收」以下。山本氏本「有陳麥亦須依此法更曬須在立秋前後則已有蟲
生」とある。

三伏日、宜服腎瀝湯、治丈夫虛羸・五勞・七傷・風濕・腎
藏・虛渴・耳聾・目暗、其方、用乾地黃六分・黃芩六分・
白茯苓六分・五味子四兩・桂心四兩・麥門冬去心五分・防風五分・磁
石十二分・碎如碁子、洗至十數回、令黑汁盡、白羊腎一
具、猪亦得去脂、如柳葉均、右以四大升、先煮腎、耗水升
半許、即去水上肥沫等、去腎滓、取腎汁、煎諸藥、取八大
合、絞去滓澄清、分爲三服、三伏日、各服一劑、極補虛、
復治丈夫百病、藥亦可以隨人加減、忌大蒜・生葱・冷陳・
滑物、平旦空心服之（養生月覽）……〔48 b・6行〕

1 薙。山本氏本、「薙」に作る。

2 士二分。山本氏本、「三兩」に依る。

3 碎。山本氏本、「打破」に作る。

4 猪亦得去脂、如柳葉均。山本氏本、「猪腎亦得去脂膜、切柳葉片子」に
作る。

5 右以四大升。山本氏本、「右水以四大升」に作る。

伏日、切不可迎婦、婦死、已不還家（養生月覽）……〔49
a
・3行〕

1 迎。山本氏本、「近」に作る。

△種蘿蔔、諺云、頭伏蘿蔔末伏芥、宜肥地、沙土尤佳、

瘦地用糞作壠、先於五月內、耕耙五六次、至是月六日、種之、鋤不厭頻⁽²⁾尤宜、稀則根大而實子陳尤佳（養餘月令卷

一一 六月）……〔51a・4行〕

1 「種蘿蔔」以下。山本氏本「種蘿蔔、宜沙壤地、五月犁五六遍、六月六日種鋤不厭多、稠即小間拔令稀」に作る。
2 「尤宜稀」以下。山本氏本、對應記事を缺く。

七月七日、取蜘蛛網一枚、著衣領中、令人不忘（養生月覽）……〔55b・1行〕

七月七日、取麻勃一升、人參半升、合蒸、氣盡令遍、服一刀圭、令人知未然之事（養生月覽）……〔55b・2行〕

七月十五日、取佛座下土、著臍中、能令人多智、厭火災

（歲時廣記卷三〇 中元 取佛土。養生月覽、「厭火災」の三字無し）……〔55b・3行〕

七月二十三日、沐、令人長壽（養生月覽）……〔55b・5行〕

八月三日、宜浴（養生月覽）……〔62b・2行〕

八月二十五日、宜浴（養生月覽）……〔62b・2行〕

七月二十五日、浴、令人長壽（養生月覽）……〔55b・5行〕

八月十九日、拔白、永不生（養生月覽）……〔62b・3行〕

七月二十八日、拔白、終身不白（養生月覽）……〔55b・6行〕

立秋後、宜服張仲景八味地黃丸、治男子虛羸百疾衆所不療者、久服輕身不老、加以攝養則成地仙、其方用乾地黃半乾薯藥兩白茯苓兩牡丹皮兩澤瀉兩附子兩炮二肉桂二山茱萸四兩湯泡五遍

1 右擣篩蜜爲丸。山本氏本、「右件一處搗羅羅爲末、煉蜜爲丸」に作る。
2 酒。山本氏本、「暖酒」に作る。

△是月初二、初四、十五、十九、二十五日、拔白永不生
（養余月令卷一四 八月）……〔本條、十九日の條のみ 62b
・3行に對應するが他は對應しない。〕

八月七日、沐、令人聰明（養生月覽）……〔62b・2行〕

八月四日、勿市附足物、仙家大忌（養生月覽）……〔62 b・3行〕

八月、勿食鷄子、傷神（養生月覽）……〔62 b・4行〕

十月朔日、風雨者、旱、夏水、麻子貴十倍、二日、雨、貴五倍、一云、來年麥善、晦日同占（歲時廣記卷三七 小春占麻麥）……〔70 a・4行〕

1 旱。山本氏本、「春旱」に作る。

八月、宜合三勒漿、非此月則不佳矣、其法、用訶梨勒、毗梨勒、菴摩勒、以上並和核、用各三兩、搗如麻豆大、用細白蜜一斗、以新汲水二斗熟調、投乾淨五斗盞甕中、卽下三勒末、熟攪、數重紙密封三四日、開更攪、以乾淨綿拭去汗、候發定卽止、但密封、此月一日、合滿三十日、卽成味至甘美、飲之醉人、消氣下氣（養生月覽）……〔63 b・9行〕

1 三兩。山本氏本、「三天兩」に作る。
2 用。山本氏本、「不用」に作る。

十月朔日、風從東來、羅賤、從西來、春貴（¹）、朔日、風寒、正月米貴、大雨、大貴、小雨、小貴（歲時廣記卷三七 小春ト米穀）……〔70 a・6行〕

1 羅賤。山本氏本、「春羅賤」に作る。
2 春貴。山本氏本、「春羅貴」に作る。

十月一日、宜沐浴（養生月覽）……〔72 b・4行〕

十月四日、勿責罰人、仙家大忌（養生月覽）……〔72 b・3行〕

九月九日、收枸杞浸酒、飲不老、亦不髮白、兼去一切風（養生月覽）。歲時廣記卷三六 七夕 收枸杞、ほゞ同じ。養

餘月令卷一六 九月は「是月、取枸杞子、浸酒飲、令人耐老」とある。）……〔68 b・2行〕

九月二十八日、宜浴（養生月覽）……〔68 a・3行〕

鹿骨酒、久服、長骨留年（后山詩註卷五 贈寇國寶三首任淵注）……〔72 b・5行〕

冬月、宜服鐘乳酒、主補骨髓益氣力逐濕、其方、用乾地黃

とある。

八分、菖蒲一升、熬別爛搗、牛膝四兩、⁽¹⁾五加皮四兩、桂心二兩、防風兩

地骨皮四兩

⁽²⁾桂心兩、防風兩、仙靈脾三兩、鐘乳五兩、甘草、湯浸三日、以半升牛乳、盞瓶中沒炊之、於炊飯上蒸之、牛乳盡出、暖

水淨淘洗、碎如麻豆、右諸藥並細剉、布袋子貯、浸於三斗酒中、五日後、可取飲、⁽³⁾一升清酒、量其藥味、卽出藥、起

十月一日、至立春止、忌生葱薑陳臭物（養生月覽。養生類纂卷一四 食饌部ほど同じ）……〔72 b・11行〕

1 五加皮。山本氏本、「五茄皮」に作る。
2 半升。山本氏本、「半片」に作る。
3 一升：卽出藥。山本氏本、「出一升、卽入一升清酒、量其藥味、減則止、卽出去藥」に作る。
4 一日。山本氏本、この下に「服」の字あり。

十一月十六日、沐浴吉（養生月覽）……〔77 b・11行〕

十一月十日、十一日、拔白永不生（養生月覽）……〔77 b・11行〕

十一月十一日、不可沐浴、仙家大忌（養生月覽）……〔78 a・1行〕

十一月、勿食陳脯（養生月覽。養餘月令卷一九 十一月）……〔78 a・2行〕

共工氏、有不才子、以冬至日死、爲疫鬼、畏赤小豆、故冬至日、以小赤豆粥厭之（養生月覽）……〔77 b・9行〕

△⁽¹⁾冬至日、數至元旦、五十日者、民食足、有餘日、一日增一升、不滿五十日者、遞減歲荒（養餘月令卷一九 十一月）……〔3 a・1行〕

1 本條、山本氏本と著しく異なる。山本氏本は「又常以冬至數至正月上午。日、滿五十日、人食長一日、餘一月食、少一日、卽少一月食、此有據」

十一月、勿食生菜、令人發宿疾（養生月覽、養餘月令一九十一月。）……〔78 a・2行〕

十一月、陰陽爭、冬至前後各五日、別寢（養生月覽）……

〔78 a・8行〕

十二月二日、宜浴去災（養生月覽）……〔80 a・8行〕

十二月十五日、沐浴沐災（養生月覽）……〔80 a・8行〕

十二月二十三日、沐吉（養生月覽）……〔80 a・8行〕

十二月七日、拔白、永不生（養生月覽）……〔80 a・9行〕

犀骨丸、療癰腫並發瘡一切毒腫、服之腫化爲水、神驗、方

犀骨壳十二分屑 蜀升麻 黃芩 防風 人參 當歸 黃耆 乾

薑 蓼藍 黃連去 甘草炙 檀子仁已上各四兩 大黃三分 巴豆二十介醋

熬令黃
去心膜

右先擣巴豆如泥、又研令極細、餘十三味並爲散、入巴豆膏同、研令至勻鍊蜜同、擣令巴豆勻細爲丸、如梧桐子大、患者飲服三丸通利、三兩行喫冷漿水粥止之、如不利加至四五丸、唯初服快利、後漸減丸散、取馮利爲度、老小以意增減、腫消皮皺、痛黃水盡乃止、忌熱麵・魚蒜・豬肉・菘菜・生冷・粘食等（醫方類聚卷一七三 癰疽）……〔82 b・4行〕

臘月、好合菌陳圓、療瘴氣・時疫・溫黃等、若嶺表行、此藥常須隨身、其方、用菌陳四兩大黃五兩豉心(4) 五合煎令香恒山三兩梔子人三兩熬砧硝三兩杏人(5) 三兩去皮尖熟研後入之(6) 烹甲(7) 二兩炙去膜(8) 巴豆一兩去皮心熬(9) 右九味搗篩、蜜和爲圓、初得時氣、三旦、

別研後入之(10) 酒及醋塗炙(11) 巴豆飲服五圓、如梧桐子大、如人行十里、或痢或汗或吐或不吐不汗不痢等、更服一圓、五里久不覺、卽以熱飲促之、老小以意酌度、凡黃病・痰癖・時氣・傷寒・核瘡・小兒熱・欲發瘡、服之無不差、療瘴神效、赤白痢亦效、春初一服、一年不病、忌人覓、蘆筍、猪肉、收瓶中、以臘固瓶口、置高處、逐時減出、可三二年一合（養生月覽）……〔83 b・3行〕

1 圓。山本氏本、「丸」に作る。以下、同じ。

2 痘氣・時疫。山本氏本、「瘴疫・時氣」に作る。

3 表。山本氏本、「往行」に作る。

4 須。山本氏本、この字無し。

5 熬令香。山本氏本、この三字無し。

6 7 人。山本氏本、「仁」に作る。

8 二兩。山本氏本、「三兩」に作る。

9 入之。山本氏本、「入用」に作る。

10 搗篩、蜜和爲圓。山本氏本、「搗羅爲末、鍊蜜和爲丸」に作る。

11 10 十里。山本氏本、「十里許」に作る。

12 不痢。養生月覽は「利」に作るも、文意通じ難い。いま山本氏本によつて改めた。

澡豆、糯米二升、浸擣爲粉、曝令極乾、若微溫⁽¹⁾、卽捐香黃明膠壹斤、炙令通起擣篩、餘者炒作珠子、又擣取盡須過熟、皂角壹斤、去皮後秤、白及・白芷・白斂・白朮・稟本・芎藭・細辛・甘松香・零陵香・白檀香十味、各壹大兩、乾構子壹升⁽²⁾〔桔子一名〕、右件擣篩細羅、都匀相合成、澡豆方甚衆、此方最佳、李定所傳（醫方類聚卷八〇 頭面門二 治頭赤禿諸方）……〔84 a・6行〕

1 微溫。山本氏本、「微濕」に作る。

2 白及。山本氏本、「白芨」に作る。

3 白斂。山本氏本、「白蘞」に作る。

臘日、掛猪耳於堂梁上、令人致富（養生月覽）……〔85 b・9行〕

臘日、收猪脂、勿令經水、新器盛、埋亥地百日、治癰疽、此月收亦得（養生月覽）……〔85 b・2行〕

1 新器。山本氏本、「新瓷器」に作る。

2 此月收亦得。山本氏本、割注の形にて、「此月中收者亦得」に作る。

歲除夜、積柴於庭燎火、辟災而助陽氣（養生月覽。歲時廣記卷四〇 歲除 燒骨髓の條は「歲」・「火」・「而助陽氣」の文字を缺く）……〔86 b・2行〕

十二月晦日前兩日、通晦三日、齋戒燒香、靜念、仙家重之（歲時廣記卷四〇 歲除 修齋戒・養生月覽）……〔86 b・5行〕

臘日、取皂角、燒爲末、遇時疫、早起以井花水、調一盞服之、必効差（養生月覽）……〔86 b・8行〕

1 時疫。山本氏本、「時疾」に作る。

2 早起。山本氏本、「晨旦」に作る。

3 一盞。山本氏本、「一盞匕」に作る。

臘日、好合藥餌、經久不竭（養生月覽）……〔86 b・9行〕

1 「不竭」の下、山本氏本に「耳」の一字あり。

屠蘇酒、大黃・蜀椒・桔梗・桂心・防風各半兩、白朮・虎杖各一分、烏頭半分、右八味、剉以絳囊貯、歲除日薄晚、掛井中、令至泥、正旦出之、和囊浸於酒中、東向飲之、從小至大、逐人各飲少許、一家無病、候三日、稟囊并藥於井中、此軒轅黃帝之神方矣（醫方類聚卷四五 傷寒門一九
臘温）……〔86 a・8行〕

1 桔梗。山本氏本、「苦梗」に作る。

2 一分。山本氏本、「一兩」に作る。

3 時。山本氏本、「時藏」に作る。

4 從小。山本氏本、「從小起」に作る。

山本氏本未載史料

閩人以夏逢庚入梅、芒種逢壬出梅（通雅卷一二 天文）
立秋日、以秋水吞小豆七七粒、止赤白痢疾（歲時廣記卷二
五 立秋 服小豆）

屠蘇、孫思邈庵名、一云、屠割也、蘇腐也（事文類聚卷六
古今文集 元日）

五日、取蝙蝠、倒掛曬乾、和官桂薰香燒之、可辟蚊蟲（養
餘月令卷九 五月）

五日、取葛根爲末、療金瘡、斷血、除瘧、取豬牙燒灰、治
小兒驚癇、并塗蛇傷（養餘月令卷十 五月）

勿食生韭、多涕唾、勿食黃風、損神氣、勿食獐肉、動氣
(養餘月令卷一九 十一月)

梅熟而雨、曰梅雨（歲時廣記卷二 夏 黃梅雨）
三伏日、不可嫁娶、傷夫婦不吉（邊生八牘卷四 四時調
攝。養餘月令卷十二 六月）

冬至日、數至元旦、五十日者、民食足、若不满五十日、一
日減一升有餘日益一升、最驗、至前、米價長、至後、必
賤、落則反貴、寒不降、五月雷電、朔日、值冬至、主年荒
歲凶、古占書、以朔日至、爲令辰（廣群芳譜卷六 天時
譜十一月）

十 養生月覽合校本

1)

(2) (1) 合校に當てば内閣文庫蔵萬葉山文庫本を底本とし、これを上巻に指ける。各原本との整校の次第は下巻に記す。
對校した諸本は次の通りである。

内閣文庫藏
舊醫學館本（略稱、い本）

武田研究所圖書館藏 舊三木榮博士本（略稱、三木本）

曲直瀨玄朔撰 養性月覽(略稱、曲直瀨)

(5) 紅葉山本
医書館本・三木本 それそれに稚拙な筆寫の誤まりがある、あまりに明白な誤まりは——々これを指摘しない
紅葉山本は、「七月七日採守宮」の條の途中の「故號守宮又按万畢術曰守宮飾女臂有」の記事以下「七月十一日取枸杞菜・不病不老雲笈七籤」
まで二十四行を、誤まつて「立秋日、人未動時……歳時 雜記」のあとに配している。ここにはその錯簡を訂正して掲げた。
紅葉文庫本寫真版掲載については内閣文庫の御承諾を得た。

(1) 養生月覽序

予嘗講求養生之說編成集譜之月覽矣。惜其遺失於
是復為雜類收羅前書未盡之意兼因爲註^③蓋欲覽之得
真詳也。勝者審乎是始見予之月覽也。或患乎拘詞見予
之雜類也。復慮乎雜胡不思淘金於砂然後震水之空出焉。
株至於石然荆山之璞見焉帝始手拘鳥乎達弗由乎難
鳥乎予書之詳也。蓋指人以入道之序若夫深造自得左
右達原則符諸悟理君子大何疑焉。嘉定十五年歲次辛
酉當之日客見周當惠書

- (1) 養生月覽序。三木本、序を缺く。

- (2) 貴。い本「遺」に作る。

- (3) 謹。い本「謹復」に作る。

(2) 養生月覽目錄

上卷

正月 三十四條

二月 三十五條

三月 三十六條

四月 三十二條

五月 八十條

六月 共九條

下卷

七月 五十三條

八月 五十三條

九月 三十八條

十月 三十二條

十一月 二十五條

十二月 五十條

- (4) 養生月覽目錄。三木本、目錄全部を缺く。

養生月覽目錄

卷之三

察菴 周 宇 惠
纂集

鄉貢進士錢塘縣知縣撫陽謝賴校正重刊

正月

正月一日子丑時燒素持令人食庫不虛月令西經

元日子後至丙子小至大糲酒一合吉同上

正月旦雞鳴時祀太歲照五果及粢稻上下則無蟲時年有

桑果灾生虫者元日照若涉走穴四時莫要

元日寅時飲麌酒自細及長雜五行書

正月旦及正月半以麻子赤豆二七顆置井中辟疫病急切同上

元日平旦各塗艾七粒終歲不於食中誤吃蠅子昌黎詩雜記

正月一日燒木夏飲木湯同上

元日服桃湯桃者五行之精厥伏形氣百鬼皆畏之周易

元日縛懸葦以燐桃棒門戶上却驚瘦也同上

元日未出時朱書百病符懸戶上月令西經

正月一日未明小兒不長者以手攀之東牆勿令人知或云於狗

中使人牽之五項辟錄

元日處前燒竹以辟山臊惡鬼也山臊在西方深山中長尺餘性

不畏人犯之令人寒熱病畏燥竹太白術說

元日造五辛盤正元日五薰鍊形註曰五辛取以發五臟氣

正月一日取五木煮湯以浴令人至老無髮里徐僧註云道家

謂青木香為五香亦云五木雜脩養書

(1) 摂者・校正者名。三木本、これを缺く。

(2) 旦。三木本「朝」に作る。

(3) 同右。

(4) 形。三木本「邪」に作る。

(5) 捺。三木本、この字を缺く。

(6) 元日造五辛盤。三木本によれば出典は「周處風土記」。

(7) 徐僧。三木本「徐僧」に作るは誤なり。

元日造椒柏酒。朴是玉衡靈精服之令人身輕能走。(三)四月令

仙藥又造酒淡草當從小起以草少者為先。

元日造桃板著戶謂之仙本像桃符。

歲旦服赤小豆二七粒而東以葦沫下即一年不疾病家人奉令。

元日造桃板著戶謂之仙本像桃符。

歲旦服赤小豆二七粒而東以葦沫下即一年不疾病家人奉令。

元日取小便洗腋氣大効。

正月一日取枸杞葉燒作湯沐浴令人光澤不老。

正月一日取鵝巢燒著於廁紙辟兵。

歲旦日埋敗履於庭中家出与綬墨子抄錄。

正月朝早持物去塚頭取吉磚一口持呪要拆一年無時疫安。

大門也本草。

臘月單向正旦朝所居處埋之辟瘟疫。

昔有齊人歐明者棄軒遇青草湖急遇風騎渡而逢青草湖君。

邀請止家。堂宇謂歐明曰惟君所欲言當金玉半物吾當奉卿。

明未知所答。傳有一人私語明曰君但求如願並賜餘物明依其人。

語湖君嘿然默然復更便許及出方呼如願即是一少婢也。湖君語。

明日君領取至家如要物但就如願取滿得明至家數年。

遂大富後至歲旦如願起呈明報之額以頭鏡米糲等中漸。

渡失誠後明家漸貧。令人歲旦奉事不出户恐如願在直。

正月一日取鵝巢燒灰撒門重衣辟益。

正月三日買竹筒置家中四壁上令田舍萬倍錢財自來。

正月四日拔白木不生稊。晨接神仙後自他月做此拔白髮髮同生。

(8) 崔氏。三木本「崔寔」に作る。

(9) 沐。三木本「汁」に作る。

(10) 元日取小便。三木本によれば出典は「碩碎錄」。

(11) 旦。三木本「朝」に作る。

(12) 旦。同右。

(13) 同右。

(14) 永。曲直瀬本「髮」に作る。

正月五日取蕷莖根細切以水漬之三百克煎可治馬衰弱三子尤效
水脲下日三服百日伏尸盡下出人狀難理之核曰伏尸當服此

我嘗爲天無後相呂即去隨故道還顧常先蹶之

卷之三十一

正月廿四日早起，天晴，微寒。午後晴。

人日夜多鬼鳥過人家健庠等戶被狗牙噉村林棲之劉望歲詩記

正月八日沐浴去灾禍神仙沐浴時纂要

五香湯法用蘭香一斤、荳花一斤、零陵薑一斤、青參一
斤、白楂一斤、五物切以水二斛、五斗蒸取一斛、一斗以自

洗浴也此湯辟惡除不祥先降神昊眉之以沐浴治頭風

刻前草月初上宣、日燒中庭、令人一寒不著天行。四時集子晏

正月上元日持女青赤三色帛詩堂上燈懸前帳中大吉熊羆

病女青草也

正月十五日作餡餅，新舊之物不食也。
晉書十五日作膏腴以祀門戶。至燭光也。

正月十五日作豆糜如油贊箕上以祠門戶祠羹歲時九
(22)

正月十五日村主令人有子夫也。共於富翁居舍取溫之物。令人

正月望日以柳枝拂户上隨柳枝所指處祭之致酒脯祭之廟
譜

(18) 正月「上寅日。三木本、本條を細字にて書く。」
(9) 修正。三木本、「逢魔一二年」。

19 経裏 三木本「経裏」に作る

(21) 正月十五日。三木本、本條を「作

(2) 箱。一本、二の字を缺く。

(23) 安床下。い本、三末本「安臥床下」に作る。

(24) 祭之。三木本。この二字を缺く。

(15) 道還「三木本「道無還」に作る。」

(17) 上會。三末本「上會日」に作る。

記云吳縣張成夜於定東見一婦人曰我是地神明日月半宜以餽摩頭祭我令君家蚕桑不加倍後聞如言令人語之
祐錢財歲豐記

(25) 用。三木本「果」に作る。

上元日可齋或誦其遊度人經令人資福壽

(26) 築要

年春日食生菜不可過多取迎新之意及遊饅頭以遵守和氣

(27) 千金

上學之士當以立春之日清朝蒸白芷桃枝青李杏三種來向沐

浴

(立夏七箇)

立春日鞭土牛座民爭之得牛肉者置家宣蚕亦云治病

(28) 吕

公歲時節祀

後生於立春并社日食蠶者至納婦拜門日腰有声如嚼蠶

(29) 同上

皆以為戒

立春時春牛泥撒在芒草下蜘蛛不上地辟錄

入春室脫綿衣令人傷寒霍亂

(雲笈七箇)

正月之節宜加綿襪以燙足

(千金月令)

正月宜淮⁽²⁹⁾葉枝湯及造煎以備用其桑枝湯方取桑枝如臂幹

大者細挫以解熬作湯又桑枝煎方取桑枝大如臂幹者細

剉三升熬令微黃以水六升煎三升去滓以重湯前取三

下白蜜三合黃明膠一兩炙作末煎成以不津器封貯之

同上

正月韭始青可以食凡不可以作羹撰人作蠶佳凡作蠶必先

(31)

(31) 作羹。い本「作羹食」に作る。

(29) 淮。三木本「進」に作る。

(30) 二。い本、三木本「二升」に作る。

割一所地土上一寸土取坐不洗便接沸湯中湧出鑄所割

新土上更久然後入水淘擣

同上

正月不可釋綿襦宣食粥凡粥有三等一曰地黃以補虛取遺

四處擣取汁候粥熟即下之以綿裹百粒生薑一片
棗術中僵然出之下羊腎一具去脂膜細切如韭葉末大加少
鹽食二曰防風以去四肢風取防風二大分煮取汁作粥

三曰紫蘇以去擁氣取紫蘇子熬令黃香以水研漿

正月勿食鹿飼狸肉令人傷神損氣

今金方

正月不得食生葱令人面上起遊風

同上

正月勿食糉

梅郎方

正月食鼠殼爲單瘡小孔下無者是此病

李本草

正月之節食五辛以辟惡氣蒜葱韭薑姜也

金匱心鏡

正月雨水夫妻各飲一盃逐名當落穀時有子神効也

李本草

正月初嫁忌空房多招不祥不可不謹不可得已當以蕙草繩

李本草

床上櫈之瑣碎錄

正月里子後自臘日汲井花水脈令髮不白

白符集卷一

正月未日夜蓋苦火照井廁中百鬼走

荆楚歲時記

正月寅日燒白髮吉

千金方

正月二月取草一陸根三十斤淨洗處切長二寸許勿令中風

李本草

絞取裏葉盛懸屋北六十日陰燥為末以方寸匕水服

旦先

食服十日吳鬼六十日便鬼取金銀室物作屋舍隨意

(34) 旦。三木本「朝」に作る。

(32) 姜。三木本、薑に作る。

(33) 可。い本。三木本、この字を缺く。

欲十日是千皇百日登風復雲久服成仙坐艾義

坐艾義

春不可食肝馬肝王時以死氣入肝傷也全還要里方
春服小續令湯五劑諸補散各一劑百病不生半金方

春月飲酒茹葱以通五臟。老子

春三月每朝梳頭三百下至夜飲卧湧湯去熱塗一盞從膝下

洗足足方臥以通濱風毒脚氣勿令壅滯。四時養生論

春七十二日省酸增甘以養脾氣半金方

春間不可食蟬蟲頭其中有血也彌碎錄

春三月夜卧早起出裏帶。春間又掩雪及七歲曰季春月宜卧

趙先生曰欲除戶鬼之法春月釋甲乙夜視廄星所在朝之毒舞

惡竊祝曰願東方明星君扶我鬼接我魄使我壽如松

柏生年一萬歲生不落穎為甲除身中三尸九蟲盡走消滅

常擇潔淨頻行之為善此仁德樂生君子本也木刻戶去

妙設秘之雲笈七藏

太虛真人曰常以春甲寅日夏丙午日秋庚申日冬壬子日晦時朱搏朱砂雄黃雌黃三物等分細搏以綿裹之使

如裹大膽臘時塞西月申此消三尸鍊七鬼之道也

明日日中時以東流水沐浴畢更整飾牀席易著衣物浣故者更履屐先除潔之都畢又博酒於寢牀下通令

醉一室淨潔平安枕臥向上開氣擣固良久微咤曰天道有常改易故新上章吉沐浴為真三氣消尸朱黃安魂寶鍊七魄。與我相親此道是消鍊尸穢之上法改易

(35) 梳。三木本「搔」に作る。

(36) 三百。い本、三木本「一二百」に作る。

(37) 此。三木本「此」の字なし。

(38) 魂。い本「鬼」に作る。

(39) 木剋戶去。三木本「木剋土所以戶去」に作る。

(40) 時。い本「特」に作る。

(41) 搏。三木本「搗」に作る。

(42) 吉。い本、三木本「吉日」に作る。

真氣之而安，試也。四時各一日為之。同上

春日宜賜是傳據同上又每令金月今日正月之薦宜加緋縞，故是

九卦春欲得頭向東有財利益。同上

二月

二月二日取枸杞米煮作湯沐浴令人光澤不病不老。雲笈七籙

二月三日不飲鹽。全金目

普藥食時二月二日得人子，婦養之家便大富後以此日出野田中

種蓬萊向門前以榮之，云邊富歲事無憂。

二月六日宜沐浴齋戒或天祐其福。雲笈七籙

二月八日授白神仙良日。四時纂要

二月八日黃帝時沐浴令人輕健。皇笈七籙

二月九日忌食一切魚蟹。同上

二月九日勿食魚仙家太忌。白雲先生雜記

二月十四日忌遠行水陸並不可往。雲笈七籙

二月勿食苦花菜及陳薤發痼疾動痼疾勿食大蒜令人氣壅

闊隔不通勿食葵子及難子等人氣勿食小蒜傷人志性

勿食兔肉令人神龜不安勿食狐貉肉傷人神。同上

二月腎藏氣微肝藏正王宜賜去疾宜泄皮膚令得微汗以散去冬溫伏之氣。同上

二月勿食鵝，傷腎。白雲先生雜記

二月勿食葵，傷腎。白雲先生雜記

(1) 二月二日取枸杞菜。三木本、本條を「二月六日八日宜沐浴齋戒」の次に配す。

(2) 二日。い本「三日」に作る。

(3) 人神。曲直瀨本「人腎」に作る。

(4) 宜膈去痰。三木本・曲直瀨本「宜淨膈去痰」に作る。

二月勿食雞子令人嘔惡心 千金方

二月宜食鹽大益 人心同上

二月行途之間勿飲陸地流東令人霍瘡瘻又損脚令軟手足

二月初復噴火兩脚 三里絕骨對穴各七壯以滅毒氣至夏即

無脚氣衝心之疾 四時養生論

二月之節不可食生冷 千金月令

二月申不可吊喪間疾可哀矣承 同上

每至二月吐痰綠中辛向後癌多因傷寒至於風勞氣冷多起自

痰涎可取牛蒡子一合以姜治一兩同年蔓子搗烏末入
五更初捲新汲水一椀奇令勿暮起東向服之便卧良久

以擦肩胸當吐以益盛之勿令起坐凡是以瘥渴痰涎出盡

茎蕷勝水最妙興濟記取蒸餅切火上炙令黃便噴之仍煎
姜蜜湯下至克不深著 痰綠病亦不能害人 醫生論

二三月內天晴日取薯蕷洗去小刀子刮 善後又剝去第二

重白皮約厚一分已來於淨紙上着篩中撚至夜收於紙
籠內着微火煮之至未申時以乾為度如未乾天色陰即

火焙便為乾薯蕷藥入丸散用其第一重白皮係前剝薯蕷

二月取百合根鴨乾搗作麵細節綿益人 同上

二月上(13)全日取土泥蓋屋宜蓋 同上

二月上(14)雨日沐髮愈疾南陽太守曰首太原王景有沉疴用之

皆愈 同上

(5) 行途。三木本「行道」に作る。

(6) 飲。三木本「食」に作る。

(7) 生冷。曲直瀬本「生苔」に作る。

(8) 以。三木本「以上」に作る。

(9) 記。三木本「訖」に作る。
(10) 姜。三木本「薑」に作る。

(11) 着。三木本「著」に作る。
(12) 同右。

(13) 上壬。三木本「上丑」に作る。
(14) 上内。三木本「上卯」に作る。

二月上辰日取道中土泥門戶辟官事⁽¹⁵⁾ 同上

二月上巳日取土泥星四角大宜蚕也同上

二月乙酉日立中北首卧合舊陽有子即貴也同上

桃李花二月丁亥日收陰乾為末戊子日和井花水服方寸匕日三

脈療婦人無子大驗 同上

二月庚寅日勿食葱大惡 千金方

驚蟄日以石灰糊門限外免虫蟻出 理研錄

春分後宜脈神明散其方用艾蒿米桔梗各二兩附子一兩炮烏頭⁽¹⁶⁾

四兩細辛一兩右搗碎為散絳囊盛帶之方寸匕一人

嘗一家無病有染時氣者新汲水調方寸匕服之取汗便

差千金月令

(15) 官事。い本「官事」に作る。

(16) 一兩。三木本「二兩」に作る。

春秋二社是日人多皆戒兒女風興以春苗俗相傳苟為娶妻別社

翁社婆遷床其面上其後面苦者是且駿也呂公歲時雜記
社日小学生以葱繫竹竿上於室中執之謂之開聰明或加之以蒜

欲求能計一算也 同上

社日學生皆給假幼女較工立是日不廢業令人憇 同上

社日飲酒治難耳 同上

三月

三月一日不得与女人同處大忌之 雲笈七籙

三月三日勿食百草 外臺秘要方

三月三日採艾為人以挂戶以備一歲之急用凡采避人神 可

在千金月令

(17) 治聲。曲直瀨本「聲」とのみ記す。

三月三日取桃花米收之至七月七日取烏雞血和塗面及身三三

日後光白如意太平公主秘法四時禁要

三月三日收桃葉熬乾搗篩并花水服一錢治心痛 同上

三月三日是神一日勿食諸鱗物百一方

三月三日乃上巳日可以採艾及菖蒲青花療黃病 月令

上巳日取杏葉和茱萸作羹以避時氣制楚成時記

三月三日取菖蒲茱萸花鋪杜上及床席下可辟虫蠅極驗 琥珀錄

三月三日收苦練花或葉於席下可辟蟲蠅 同上

三月三日勿食鳥獸五藏及一切果菜五辛等物大吉 千金方

三月三日取榆葉一云桃根搗取汁七升以大醋一升同前今得五

六合先食頓服之隔宿無食即尸蟲復下本草

三月三日勿食五藏肉百草心雲笈七籤金書仙誥戒

三月三日取枸杞葉作湯沐浴令人光澤不病不老雲笈七籤

三月六日申時洗頭令人利官七日平旦浴日入時浴並招財雲笈七籤

三月六日入時沐浴令人無厄雲笈七籤

三月十一日老子拔白日真詰

三月十三日拔白水不生四時禁要

漢末有郭虞者有三女一女以三月上辰一以上巳二日而三女生

乳並亡迄全時俗以為大忌故於是月是日婦女忌諱不得
復止家皆過東流水上就過遠地祈祓自潔濯也風土記

三月十六日忌遠行水陸俱不可往雲笈七籤

三月二十七日宜沐浴 同上

(1) 桃花米。三木本「桃花末」に作る。

(2) 百一方。三木本「百歌」に、い本「百一歌」に作る。

(3) 杜上。曲直瀬本「灶上」に作る。

(4) 琥珀錄。三木本、出典を缺く。

(5) 同上。同右。

(6) 雲笈七籤金書仙誥戒。三木本、出典を缺く。

(7) 平旦。三木本、この二字を缺く。

(8) 雲笈七籤。三木本、出典を缺く。

(9) 雲笈七籤。同右。

(10) 漢末有郭虞者、以下三行。三木本、空白。

病

三月宜食韭大益人心。出千金方又按雲笈七籙曰：「李春食韭，發

三月勿食生薑。本草

三月中可服單衣。千金月令

三月採桃花未開者，陰乾百日與赤根等合搗和臘月猪膽。

塗毛瘡神効
四時纂要

三月食雞子終身昏亂。白雲先生雜要

三月之節宜飲松花酒。其法取粳米淘百遍以神麴和凡米。

斗用神麴五兩，春月取松花精長五六寸者至一尺餘，米尾者各三兩，細剉一升，蒸之，綃袋盛之，酒一升，浸取五日堪服。一服三合，日三服。久服神仙。
千金月令

三月勿食脾乃季月土駐在脾故也。千金方

三月羊糞、糞氣及存性和輕粉麻油可傅患瘡一名百

草霜項臂錄

三月勿食絞龍肉及一切魚肉令人飲食不化。發宿傳人神

氣愾愾出千金方又按雲笈七籙曰：「日食魚山」

三月入衡山之陰，取不見日月松脂棟而餌之，即不召而自除。

之百日耐寒暑二百日五藏補益服之五年即見西王母

同上

三月不得食陳祖夏熱病發患瘡。本草

三月採章陸一名商陸，一名當陸，如人形者，神逐陰之精此

神革也，殺伏尸去面黓黑，益智不忘，因名女五，亦名七傷。

(19) 不得食。三木本「不食」に作る。

(15) 煙。三木本「煅」に作る。

(16) 發宿。い本・三木本「發宿病」に作る。

(17) 又接。三木本「又云」に作る。

(18) 不見日月。三木本「日月不見」に作る。

(11) 三月中可服單衣。三木本、出典を缺く。

(12) 四時纂要。三木本「白雲先生雜記」四時纂要に作る。

(13) 雜要。三木本「雜記」に、い本「雜忌」に作る。

婦人乳產餘病帶下結赤白皆愈右用趨十斤米

三十加天門冬成末一斗釀酒清毒⁽²⁰⁾陸六日便齊服

五日食減⁽²¹⁾二十日穀肥客氣克⁽²²⁾諸虫皆去耳目

聯明⁽²³⁾皆滅以月宿與鬼日加丁時取高陸脈如東日三道士常種此藥草於靜室之園使人通神令人不老

長生去三虫治百病毒不能傷矣靈芝⁽²⁴⁾七莖

春季月食生薑令飲食不消化發宿疾食療本草

春季月末一十八日省耳增熱以養眼氣千金方

季春月陽城陰伏勿發泄大汗以養藏氣勿食馬肉令人

神竟不安勿食鹿肉一度肉等⁽²⁵⁾損志靈芝七莖

季春月肝藏氣伏心當向王宜益肝補腎是月火相水死

勿犯西北風勿久處湿地勿招邪毒勿大汗當風勿露臍

星宿下以招不祥之害同上

世傳婦人死于產者其鬼唯於一百五日得自漸灌故人服

寒食前一日皆畜水是日不上并以避之⁽²⁶⁾呂公歲時雜記

寒食日取糲米⁽²⁷⁾於月德上取土脫墼一百二十口安宅福德上

令人致福四時纂要

寒日以細袋盛麵挂當風處中署調水脈瑣錄

寒食日水浸糯米逐日換水至小滿漬出曬乾炒黃碾末水調

療打摺傷及諸瘡腫⁽²⁸⁾同上

寒食一百五日預採大麥⁽²⁹⁾曝乾能治氣病用時持羅馬末

食前粥未飲調下一錢最効⁽³⁰⁾同上

(20) 清。三木本「漬」に作る。

(21) 減。三木本、この字を缺く。

(22) 皆。三木本、この字を缺く。

(23) 道。三木本、この字を缺く。

(24) 損志。三木本「損氣損志」に作る。

(25) 呂公歲時記。三木本、出典を缺く。

(26) 細袋。三木本、「紙袋」に作る。

清明前二日夜雞鳴時放黍米熟取釜湯遍洗井口齋鬼追地

則無鳥蛇百蟲不近并應是神驗者民草術

清明日未出特採齊菴花枝候乾夏日做挑灯杖能祛蚊聲

菜亦名護生草於清明日取花陰乾⁽²⁷⁾暑月置近燭則

能令蚊蟻不侵瑣碎錄

清明日取火斗內着火燒薰東子於臥帳內上下令烟氣出令一

人間炒甚底答曰炒狗蚤凡七問七答狗蚤不生矣⁽²⁸⁾

四月

四月四日日昧時沐浴令人無訟雲菴七歲

四月七日沐令人大富⁽⁴⁾四時⁽⁵⁾集要

四月八日不宜遠行宜安心靜念沐浴齊戒必得福慶⁽⁶⁾攝生月

四月八日勿食百草⁽⁷⁾外基秘要方

四月八日勿殺草伐樹金言仙⁽¹⁾詩戒

四月八日取狗杞菜者作湯沐浴令人光澤不病不老雲菴七歲

四月九日日沒時浴令人長命⁽⁴⁾四時⁽⁵⁾集要

四月十六日拔白髮黑髮同上

四月食雉令人氣逆食鱈魚害人白雲先生輯忌

四月之節⁽²⁾宜服衣宜進溫食宜服煖藥宜食羊取腊⁽³⁾達羊

腎肺法右以兒繫子兩研煮取汁濾之浸麵功療眼
以羊腎一具功效作肺脈之尤療眼睛及赤痛千金有全

四月之節宜服附子湯其方用附子一枚炮勑令焦為末分

作三服以生姜一片用水一升煎取五合明早空腹

服同上

四月之節宜食筭以寬湯⁽⁵⁾滿先旋湯轉然後投筭於中

令其自轉不得攪⁽⁶⁾即破候熟出之如此則色青而軟
之而不爛可以食和皮璧開內粳米飯細切羊肉并姜鹽
椒鹹豉汁⁽⁷⁾塩花等却以麵封之文火燒聞香即熟去皮
厚一寸裁之以進⁽⁸⁾味此最佳 同上

四月之節可以飲槐酒尤治風熱之疾可以造槐煎其造槐煎
用法槐汁三斗白蜜兩合酢一两生姜汁一合以重
湯煮槐汁取三升入塗酥羊脷令得⁽⁹⁾所於不津器中
貯之每服一合和酒調服理百種風疾 同上

四月為乾⁽¹⁰⁾生氣少死氣多是月也萬物以成天地化生勿日極熱勿

大汗後當風勿暴露星宿皆成惡疾 楝生月令

四月勿食雞肉勿食生薤 同上

四月宜補腎助肺調和⁽¹¹⁾氣無失其時 同上

四月勿食葫蘆傷人神損膽氣令人喘⁽¹²⁾急助氣千全方

四月勿食暴雞肉作內疽在肩腋下出漏孔⁽¹³⁾文夫少女傷婦一人

絕至虛勞之氣 同上

四月勿食蛇肉鮮肉損神害氣 同上

四月不得入房避陰陽終用事之月也 同上

四月勿食生蒜傷人神損膀胱食者心鏡

孟夏夜卧早起思無怒勿泄大汗⁽¹⁴⁾玄武七載

(5) 滿。三木本「沸」に作る。
(6) 即。三木本「而」に作る。

(7) 後。三木本、この字を缺く。

(8) 助氣。い本「助氣急」に作る。

(9) 文。三木本「丈」に作る。

(10) 孟夏夜。三木本、誤つて「孟夜夏」に作る。

凡臘夏欲得頭向東有所利益日上

夏夏不用丸冷物錢石等令人眼睛日上

夏月不得大醉四時養生錄

夏夏三月每朝空心坐少勿怠頭酒令血氣通暢日上

(11) 風毒脚氣用取腎虛而得人生命門屬於腎夏月腎氣裏絕若居色過度即傷元氣而致壽亦不宜多服藥桑葉七錢

夏三月宜用五枝湯潔浴訖以香粉傳身能祛瘴毒陳氏

風氣滋血脉具五枝湯方用桑枝槐枝楮枝柳枝桃枝各一握麻葉二斤右牛六味以水一石煎至半許

去滓溫浴一次其傳身香粉方粟米一斤作妙

(12) 牛。件の誤まり。
(13) 作粉妙。い本、大字に作り、「妙」を「如」に誤まる。

夏十二日有苦增辛以養肺氣千全方
(14) 苦薑。い本、薑の字を缺く。

夏月宜食苦薑以養心頭碎千錢

夏三月夜卧早起無厭於日使志無怒
夏不可食諸心全圖醫學要方

五月

五月一日日中時沐浴令人身光此出重慶七歲又接荆楚歲時記曰五月一日沐浴令人吉利

五月一日取枸杞菜煮作湯沐浴令人光澤不病不老雲笈七寶

塚上去及磚石主溫疫五月一日取之瓦器中或埋之著門外〔1〕

(1) 或。い本「盛」に作る。

增下合家不患時氣本草

五月五日朱索五色紙，序為門戶飾，以止惡氣。續漢書禮儀志。

五月五日取蠶蟬，可合惡症，瘡取東行蠶蟬治婦難產者。

定四民月令

五月五日菖蒲採衆藥以燭除毒氣。太平御覽。

五月五日荆楚人持艾以為人懸門戶上以禳毒氣。荆楚歲時記。

五月五日以五彩絲繫紙辟月者辟兵及鬼令人不病溫風俗通。

五月五日未明時採艾見似人處攬而收之用灸有驗。荆楚歲時記。

五月五日午時採艾治百病。四時纂要。

五月五日取浮萍陰乾燒烟去蚊子。千金月令。

五月五日午時採百藥心相和擣全茱樹心作孔內藥於其中以泥封之滿百日開取，取茶乾擣作末，傳金瘡。同上。

五月五日粽子等勿多食之，訖以菖蒲根節促者七莖各長一寸，清酒中服之治傷積。同上。

五月五日午時聚先所畜時⁽³⁾，築燒之辟疫氣或止燒木炭。特雜記。

五月五日正午時⁽⁴⁾於韭畔⁽⁵⁾面東不語，取蚯蚓糞乾而牧之，或為魚糞梗⁽⁶⁾以許，擦咽外刺即消。謂之六一汎。同上。

五月五日生目者⁽⁷⁾，以紅綃或⁽⁸⁾金花凡紅赤之物以拭目而卒之，云得之者代受其病。同上。

(2) 摧。三木本「搗」に作る。

(3) 築。三木本「藥」に作る。

(4) 韭畔。三木本「韭畦」に作る。

(5) 取。三木本、この字を缺く。

(6) 以許。い本・三木本「以少許」に作る。

(7) 生目。三木本「目眚」に作る。

(8) 金花。三木本「榴花」に作る。

五月五日取青蒿搗石灰至午時丸作餅子收麝丸金刃取傷者

錯本傳之 同上

五月五日午時宜合瘧疾鬼突丹先以好鐵半兩細碎安放鐵鉢內以寒水石一兩為末圍定然後以箬梳蓋却溫紙封板縫炭火熱煙出熏紙黃色即止取出以紙襯放地土出大氣毒良久細研為末入龍腦射香各少許研匀後以蒸餅水泡為丸如梧桐子大朱砂為衣每服一丸發日早辰於功德堂香爐上度過面北方并花水吞下忌熟食魚鰐生果十數日水此藥合時忌婦人僧尼雜及孝服人見如女人有病可令男子子拈入口內服之立効藥不

(9) 鈍。三木本「醜」に作る。
(10) 梭。三木本「碗」に作る。
(11) 梭。三木本「碗」に作る。
(12) 熏。い本「烹」に作る。
(13) 即。い本「而」に作る。
(14) 射。三木本「麝」に作る。

(15) 水。三木本「糞」に作る。

吐渴四時養生論
吐渴四時養生論

五月五日用尉火斗燒一枣置床下辟狗疊項辟錄

五月五日作赤吳符着心前禁辟五兵抱朴子

五月五日午時以朱砂寫茶字倒貼之 不敢近項辟錄

五月五日五更使一人堂中向空扇一人問之扇是底答蚊子凡

六問乃已則無蚊虫 同上

五月五日午時寫百字倒貼於柱上四處則無蠅子 同上

五月五日午時望太陽將水呪曰天上金雞吃蚊子腦髓火心上吸太陽氣念咒七次遇夜將燈心點照辟去蚊子 同上

五月五日取嫩瓜⁽¹⁸⁾着衣領中令人不必同上

五月五日高吉成片放厨櫃內辟鬼蛇衣帛等物收萬苦⁽¹⁹⁾
⁽²⁰⁾苦不亦得 同上

(18) 着。三木本「著」に作る。
(19) 萎。三木本「蔓」に作る。
(20) 葉。曲直瀬本「葉」に作る。

五月五日取臘水洗屋下辟蚊蠅同上

五月五日(21)以葵子微炒搗羅為末患淋疾者每食前以溫酒

調下一錢同上

五月五日取鯉魚枕骨燒服止久痢千金方

五月五日勺以鮑魚子共猪肝食之不消化成惡疾同上

五月五日鱠魚子共鮑魚子食之作癰同上

五月五日取露草一百種陰乾燒為灰和井花水重煉令爲

鮮牀下挾之乾即易主服之亦是當袖一身間發出即以

小便洗之本草

五月五日中時取菖根為屑療全瘡斷血亦療瘻同上

五月五日取楮齒治小兒驚癇燒灰服并治蛇咬同上

五月五日取蝙蝠倒懸者曝乾和桂薰陸香為末燒之蚊

(25)

子去同上

五月五日取東向桃枝日未出時作三寸本人著衣帶中令人不

忘千金要方

五月五日採蕷菜和馬齒莧為末等分調与妊娠服之易產

金匱本草

五月五日勺見血物靈芝七味

(26)

人。三木本「仁」に作る。

五月五日午時挑人27一百箇去皮尖於乳鉢中細研成膏不得犯

生水儀成膏入黃丹三錢丸如梧桐子大每服三丸當產發

日面北用溫酒吞下如飲酒28井花水亦得合時忌雞犬婦

人見本草

(21) 以葵子。三木本「收葵子」に作る。
(22) 鮑魚子。三木本「鮑魚子」に作る。
(23) 作癰。い本・三木本「作癰黃」に作る。

(24) 令為餅。い本「令」の下、二字分の空白を作り、三木本「令醜醋爲餅」に作る。

端午日午時或歲除夜收猪心血同黃丹乳香相和研為丸

如雞頭大以紅綃裝盛挂於門上如有子死腹中者冷

酒磨下一丸傳消方

端午日取白芷根一塊自早日懲至脫收之凡百虫所噉以此末傳

(32) 琢之瑣碎錄

五月五日以蘭湯沐浴大載禮

五月五日取金蟬為末津調塗刺頭上刺良久即出奉法

(33) 西頭有節者於一頭錐穿放入蟬塞之令自在乾死遇

有竹木等刺肉內不能出者取少許為末點刺上即出

廣惠方

五月五日取百草頭細剉臘乾用紙裹收之要用取一撮以白紙

(34) 封角句令病人問以絳帛裹藥先以眼案臂面北敷裹

(35) 膜藥下以當三錢藥繫之男左臂女右臂治一切癰瘍極

有驗千全方

五月五日取蒜一片去皮破之刀割令容巴豆一枚去心

皮內蒜中令合以竹挾以火炙之取可熟搗為丸37

遇患瘻者未發服一圓不止復與一圓時後方

五月五日及夏至日取日未出時面東汲井花水一盞作

三漱門間中如此四十日即口臭水除矣墨子經錄

五月五日取堂大蟲研汁虹擦髮白即黑矣同上

五月五日勿食一切菓發百病瑣碎錄又出千全方

端午午時書儀方二字倒貼於柱脚上能辟蚊子瑣碎錄

(31) 裝。三木本「管」に作る。

(32) 懒。三木本「懶」に作る。

(33) 本法。い本・三木本、この下に「用晚蠅蟬蓋將臂倒點潔蘭子頭出者生
收用竹筒」とあり。

(34) 晒。三木下「曬」に作る。

(35) 問。三木本「開」に作る。

(36) 膜。三木本「膜」に作る。

(37) 圓。三木本「丸」に作る。

(38) 未發。三木本「未發前」に作る。

(39) 圓。三木本「丸」に作る。

(40) 四十日。三木本「三十日」に作る。

(41) 汁虹。三木本、この二字を缺く。

端午枝蜀葵赤白者冬掛陰乾治婦人赤白帶下赤者

(42) 治赤白者治白為末酒服之四時纂要

端午日採茱萸上木耳白如魚鱗者患喉閉者搗碎錦囊

(43) 如彈丸密浸食之便差同上

端午日日未出時採百草頭唯藥苗多即尤佳不限多少擣

(44) 取濃汁又取石灰三五升取草汁相和搗脫作餅子服

乾治一切金瘡血立止魚治小兒惡瘡同上

端午日取葵子燒作灰收之有患石淋者水調方寸服之立

(45) 獨頭蒜五顆黃丹(46) 午月午日午時申搗蒜如泥調黃丹為

丸如雞頭子大臘乾患心痛醋磨一丸服之同上

端午日午時不可取井花水沐浴一年疫氣不去項辟
端午日午時有雨持天雨水研朱砂於紙上書龍字如小

錢大次年端午日午時有雨用黑筆亦畫竜字如前

字大二字合之搓成小圓臨產用乳香煎湯吞下胃左

右握手本日午時無雨則前字不可用矣同上

(53) 妻一名雞頭草主積聚瘡瘍不愈者五月五日申採

(54) 烧作焦灰五月二十日宜接白

(55) 小蒜五月五日採暴乾疗主心煩悶解諸毒小兒丹毒同上

(56) 五月二十日宜接白

(57) 五月君子齊戒節嗜欲適寒溫五月五日六月十六日別宿

(58) 犯之三年致大病

(59) 端午枝蜀葵赤白者冬掛陰乾治婦人赤白帶下赤者

(60) 治赤白者治白為末酒服之四時纂要

(61) 端午日採茱萸上木耳白如魚鱗者患喉閉者搗碎錦囊

(62) 如彈丸密浸食之便差同上

(42) 冬掛。三木本「各收」に作る。

(43) 魚鱗。三木本「鱗」の字を缺く。

(44) 錦。三木本「縣」に作る。

(45) 搗。三木本「搗」に作る。

(46) 魚。三木本「兼」に作る。

(47) 獨頭。い本、この上、一字空白。三木本「取獨頭」に作る。

(48) 一兩。三木本「二兩」に作る。

(49) 搗。三木本「搗」に作る。

(50) 晒。三木本「曬」に作る。

(51) 合之搓成小圓。三木本「合之圓作小丸」に作る。

(52) 握手本日午時。三木本「握手如次年午時」に作る。

(53) 萋。い本、この上、一字空白。三木本「聚萋」に作る。

(54) 積聚瘡痔。三木本「積年惡瘡痔」に作る。

(55) 作焦灰。三木本「作焦灰用」に作る。

(56) 萋一名鷄頭草。三木本によれば出典は千金方。

(57) 乾疹。三木本「乾葉」に作る。

(58) 五月二十日。三木本によれば出典は四時纂要。

(59) 欲適寒溫五。三木本、この五字「欲薄滋味是」に作る。

(60) 六月。三木本「六日」に作る。

(61) 致大病。三木本「致卒」に作る。

(62) 五月君子齊戒。三木本によれば出典は四時纂要。

五月六日七日十五日十六日十七日二十五日二十六日二十七日

(63) 九毒日忌⁶³事犯之不過三年。頭等級。

(64) 五月俗稱惡月。三木本によれば出典は董勦問禮俗。

五月俗稱惡月俗多六齊故生棄月令仲夏陰陽交死生

六君子齊戒止聲色節嗜欲也。

五月勿食韭令人之氣力

此出全蜀王要卷之又白雲先生錄卷之二

俗云五月上星害人五月脫精神如上屋即自見且形現蟲則

不安矣。兩陽雜往。

俗忌五月曝床席接說苑云新野瘦寢嘗以五月曝席患

見一小兒死在席上俄失之其後寢子遂亡。太平書寶

五月宜服五味子渴其方取五味子一大合以本杵臼搗之置

小瓷瓶中以百沸湯之入少蜜即蜜封頭置太過良久

勿堪服千全月令

五月勿食肥濃肉⁶⁴食伏陰在得可食溫燥之味月令高祖

(65) 五月勿食麋肉傷人神氣千全月令

五月勿食馬肉傷人神氣同上

五月勿食馬肉傷人神氣同上

五月勿食澤中停水人患驚癱病也。本草

五月戊辰日用猪頭祭社令人百鬼入通奉皇子秋錄

五月勿食度傷神。參詳

五月食未成核果令人發癰節及寒熱。同上

仲夏勿大汗當風。白黑露星宿皆成惡疾勿食雞肉生癰症

(73) 局考勿食蛇⁶⁵等肉食則令人折算壽神氣不安。

云第七歲

(66) 勿食。三木本、この下に「煮餅」の二字あり。

(67) 味。い本、この字を缺く。

(68) 千金方。三木本、「同上(月令圖經)」と記す。

(69) 千金方。三木本、「同上(月令圖經)」と記す。

(70) 五月勿食馬肉。三木本、本條を脱す。

(71) 勿食。三木本「勿飲」を作る。

(72) 人患。三木本「令人患」を作る。

(73) 蛇鰐。三木本「鱗弛」を作る。

(74) 井改水。い本「井花水」に作る。

夏至後半改水可去溫病。清漢書札儀志。
夏至有五絲辟。兵題曰游光厲鬼。知其名者無溫疾。風作通
京輔四俗皆謂夏至日食百家飯。則耐夏然百家飯難集不
相合。於姓括人家求飯當面之。呂公歲時雜記

夏至一陰生。皆服飼疏。黃以折陰氣。同上今服金辰丹也。

夏至日抹肤日果即無花果也。治咽喉。同上

夏至後迄秋分勿食肥膾餅臍之屬此與酒漿果瓜相妨入

秋節麥生。諸暴諸暴下。云夏七歲

六月一日沐令人去疾攘灾。四時禁要

六月六日沐浴齊戒絕其²俗。此出之夏七歲又接項辟錄云又接項辟錄云

六月六日忌沐浴。俗令人稱臭。

六月六日勿起土。全書仙誌或

六月七八日二十一日浴令人去疾攘灾。四時禁要

六月十九日拔白水不生。同上

六月二十四日老子拔白王。真詒

六月二十四日忌遠行水陸俱不可往。云夏七歲

六月二十七日食時沐浴令人輕健。同上

六月二十七日取枸杞茱萸作湯沐浴令人光澤不病不老。同上

六月可以飲烏梅。禁止渴其造梅漿法用破烏梅并取核。

中人碎之少室內熱渴調之。千金月令

六月可以飲木瓜漿。其造木瓜漿法用木瓜削去皮細切以湯淋之。加少姜汁沉之。井中冷以進之。同上

(3) 玉。い本「王」に作る。三木本「日」に作る。

(4) 玉。い本「王」に作る。三木本「日」に作る。

(5) 姜。三木本「薑」に作る。

六月勿食澤水令人病鼈瘻四時集要

六月食韭各半全方

六月勿食脾乃是未月土旺在脾故也同上

六月勿食菜薹傷神氣同上

六月勿食羊肉傷人神氣同上

六月勿食鷄肉傷人神氣同上

六月勿食鷄肉傷人神氣同上

季夏增鹽減草以資賁藏是月腎藏氣微脾歲紀王宜減

肥濃之物宜助取氣益固筋骨劫慎賊形之氣勿沐浴

後當風雨專用冷水浸手足慎東來邪風犯之令人手

癱瘓躰重氣短四肢無力云養生要

(6) 賊形之氣。三木本「賊邪之氣」に作る。

(7) 夏季月。

三木本「季夏月」に作る。

夏季勿食羊血損人神退少志健忘勿食生薑必成水痘同上

夏季月末一十八日省身增鹽以養腎氣半全方

夏季勿食露葵者大嘔終身不瘥四時集要

夏季之月土王時勿食生薑生菜令人軟食不消化發宿病半全方

暑月不可露臍一項碎錄

暑月極熱肩手心則五體俱涼同上

造精於三伏內黃道日浸三黃道日蒸擣黃忌婦人見即無

娘虫同上

六月伏日並作湯餅名為辟惡制是歲時記

伏日切不可迎婦婦死已不還家四時集要

三伏日宜服腎湯治丈夫虛羸五音七傷風溫腎藏虛渴耳

禁藥同體其方用乾地黃六分、葛根六分、白伏苓六分、五味子

四兩、羚羊角屑四兩、桑螵蛸四兩、破故土骨皮四兩、桂心四兩、麥

門冬去心五分、防風五分、磁石十二分、碎如姜子洗至十數

遍令黑汁盡白、羊腎一具、猪亦得去脂膜、奸石、桑葉切石

以水四大升先煮腎耗水外半許即去水上肥沫等去

腎津取腎汁煎諸藥取大合、去滓去滓清分為三服

三伏日各服一劑極補虛復治丈夫百病藥亦可以隨人加

減忌大蒜生葱冷陳渭物平且宜心眼之此四時藥要又按

十全方之夏大熱則服腎液湯三劑百病不生

(12) 養生月覽上

養生月覽下

案卷中集

鄉貢進士錢塘縣知推陽謝穎校正重刊

七月

七月七日勿念惡事事仙家大忌 白雲先生雜志

七月七日取麻勃一升人參半升合蒸氣盡令遍服一刀圭令人

知未然之事 四時集要

七月七日取商陸根細切以玄水漬之三日陰乾可治烏頭服方寸匕
以水服下日三服百日伏尸盡出如人狀燒埋之祝曰伏尸
當屬地我當屬天無後相召即去隨故道無還顧常先
服之禁一切血肉辛棄物 壓發七載

(8) 破炙地骨皮。三木本「微炙地骨皮」に作る。

(9) 十數遍。三木本「十數回」に作る。

(10) 去脂膜奸石葉。三木本「去脂膜如柳葉」に作る。

(11) 尖大合。い本「火大合」に作るも誤り。三木本「八大合」に作る。

(12) 養生月覽上。三木本、この五字なし。

(1) 下。三木本「卷下」とあり。

(2) 摄者・校正者名。三木本、これを缺く。

七月七日取菖蒲涌服三方寸匕飲酒不醉好毒者服之舊驗不可犯錢若犯之令人吐逆千金方

七月七日抹松子遇時即落不可得治脈方寸匕日三四一云一服三

合百日身輕二百日行五百里純毅脈并仙得飲水亦可

和脂脈之丸如梧桐子大服十九同上

七月七日午時取生瓜葉七枚直入北堂面向南主以拭面齧即當咸矣 淮南子

七月七日取烏雞血和三月三日桃花末塗面及遍身二三日

肌白如玉 太平御覽

七月七日抹守宮陰乾合以井花水和塗女身有文章一如以丹塗之塗不去者不淫去者有美出淮南高皇一術又接

博物志曰蠅蛭以器養之以朱砂体冬赤解食滿七日一換石
并以熟女人皮條終身不滅

故號曰守宮 又按石臙術曰守宮飾女臂有

文章取守宮新舍陰陽已牝牡各一歲之廉中陰百

日以飾女臂則生文章一與男子合陰陽輒減去

七月七日其夜洒掃於庭露施几筵設酒脯時果散香粉於

筵上以竹牽牛織女星⁽⁹⁾大漢中有变变白氣有光耀五色

以此為徵應見者便拜而願乞富氣毒無子乞子惟得乞

一不得蓋求⁽¹¹⁾二年不得言之頃有受其祚者風土記

(3) 立。三木本「三」に作る。

(4) 蠅蛭。い本「蠅蛭」に作る。

(5) 以朱砂。い本・三木本「食以朱砂」に作る。

(6) 守宮。い本、誤つて「守富」に作る。

(7) 文章。三木本「章文」に作る。

(8) 減去。い本「減去」に作る。

(9) 大漢中。三木本「天漢中」に作る。

(10) 唯。三木本「爲」に作る。

(11) 二年。三木本「三年」に作る。

七月七日取赤小豆三兩各一七粒女卷一七粒令人畢歲無病事八月

七月七日晒根草一本本無出同上

七月七日取蜘蛛網一枚着衣領中令人不忘此出四時禁要又接

墨子本根草七月七日取蜘蛛網乾內衣領中令人不忘此出四時禁要又接

七月七日取苦瓠數白絞取汁一合以醉一升古錢七文和漬微

大煎之減半以沫內眼瞼中治眼暗于金方

七月七日取烏雞血點塗手面三日爛白如玉傳身亦三日以溫

湯浴之墨子本根草

七月七日取露蜂蛹子百枚百日令乾碾末用蜜和塗之可除

野蠶 同上

七月七日取螢火虫二七枚撫髮自黑矣同上

七月七日取百合根熟搗用新瓦裏盛密封挂於門上挂陰乾百

日後白髮用藥擦之即生黑髮

七月七日取螢火虫蝦蟆端年日置腰間伏翼和脈半寸七三七日見

鬼可与語指伏室矣同上

七月七日取赤腹蜘蛛於屋下陰百日乾取塗足可行水上矣同上

七月七日取枸杞茱萸煮作湯沐浴令人光澤不病不老

同上

七月十五日中元日可行道建齋修身謝過正一符真言要

同上

七月十五日取佛座下土着睛中令人多智也

同上

七月十五日收赤浮萍用箬箕盛故捕咸水懸乾為末遇

同上

冬雪裏水調三錢服又用漢椒末浮萍搽身上則熱

同上

不畏寒詩云不傍江津不傍岸用時須用七月半冷

水裏面下三錢假饑人也出汗 環辟錄

(12) 一七枚。三木本「二七枚」に作る。

(13) 着。い本・三木本「著」に作る。

(14) 搽之。三木本「之」の字を缺く。

(15) (16) 七夕日取百合根。本條、い本・三木本によれば、出典は「同上」(墨子秘錄)とあり。

(17) 齊。い本「劑」に作る。

(18) 也。三木本、この字を缺く。

(19) 故。三木本「放」に作る。

(20) 浮萍。い本・三木本、この上に「抹」の一字あり。

當以七月十六日去手足爪燒作灰服之即自滅消九虫下三

雪策七載

七月二十二日沐全髮不白 四時養要

七月二十五日浴令人長壽 同上

七月二十五日早食特沐浴令人進道 雪策七載

七月二十八日拔白終身不白 四時養要

七月翌日取富家中庭上泥社令人富勿令人知出本草又

接墨子秋採立七月內取富家田中土塗社大富也

七月食葷上有蝎虫害人 白雲先生雜志

七月食蘿損目 同上

七月收鳥糞置乾
舊書籍中辟蛇虫 四時養要

七月之節宜出衣服圖畫以暴之 千金月令

七月勿食蕩豆作蠅虫 千金方

七月勿食茱萸傷神 氣 同上

七月勿食生薑令人暴下發霍亂 同上

七月勿食麋肉動氣 李草

七月勿食鴈傷神 推真人食忌

立秋日人未動時汲井花水長幼皆呷之 吕公歲時雜記

立秋日以秋水下赤小豆云止赤白痢 同上

立秋日太陽未昇採楸葉熬為膏傳瘡瘍立念謂之楸葉

膏頭研末

立秋日不可浴令人皮膚生瘡因生白屑 同上

立秋後五日瓜不可食 千金月令

(21) 二十一日。三木本「二十三日」に作る。

(22) 中庭。三木本「庭中」に作る。

(23) 上泥。い本・三木本「土泥」に作る。

(24) 社。い本「灶」に、武本「竈」に作る。

(25) 同右。

(26) 圖書。い本、誤つて「圓畫」に作る。

入秋小腹多冷者用吉碑者之汗服之主減氣又令患寒腹利之三

五度差 李本草

七月中暑氣得伏宜以稍冷為理宜食竹葉粥其竹葉粥法

取淡竹葉一握搗子兩枝切熬以水煎澄取漬即細浙粳

米研取汁下米於竹葉搗子汁中旋熟澆藥之候熟下鹽

花過之十全月令

秋服黃芩等丸一兩削則百病不出十全方

秋不可食諸肺 全匱李本草

(28)

立秋後宜服張仲景八味地黃圓治男子虛羸百疾衆疾不癱

(29)

者久服輕身不老加以損食則成地仙其方用乾地黃、羊

(30)

角等著藥四兩白芍藥三兩牡丹皮二兩澤鴻二兩

(31)

附子炮三兩肉桂一兩山茱萸四兩湯炮五遍右擣碎蜜為圓如梧桐子大每日空腹酒下二十圓如稍覺煥熱即大黃圓一服通

(32)

經尤妙此出四時養生要入接養生論內一味用熟乾地黃

(33)

乾暑藥三木本「乾薯藥」に作る。

(34)

秋三月早起與雜俱興 黃帝素問

(35)

秋七十二日省立丁增酸以養肝 氣千全方

(36)

秋日宜足腦俱凍云夏七歲

(37)

凡卧秋欲得頭向西有所利益 同上

(38)

秋初夏末熱氣酷甚不可於中庭脫露身背受風取涼五藏

(39)

俞穴並會於背或令人肩風或擅露手足以中風之源若

(40)

初涼諸疾便宜服八味圓大龍補理腑臟驅衛邪氣仍

(41)

忌三白恐衝利藥性 出四時養生論其八味圓方已異在

(27) 漬。三木本「清」に作る。

(28) 圓。三木本「丸」に作る。

(29) 不癱。い本「不」字を脱す。

(30) 乾暑藥。三木本「乾薯藥」に作る。

(31) 圓。三木本「丸」に作る。

(32) 同右。

(33) 又按。三木本「又用熟乾按」に作る。

(34) 一味。三木本、この下に「地黃」の二字あり。

(35) 秋日。い本「秋月」に作る。

(36) 得頭向西。い本「得頭悶兩」とあり。

(37) 以。三木本「此」に作る。

(38) 圓。三木本「丸」に作る。

(39) 出四時。三木本、この上に「此」の字あり。

前項前方用乾地黃此方用熟乾地黃

八月

八月一日已後即做太婆是向令下冷無生意千金方
弘農鄧紹八月朝入華山見一童子以五色囊承取柏葉下
露之皆如珠子亦云赤松先生取以明日余八月朝作眼明
囊也 疽脣錯記

八月三日宣浴
四時纂要

八月四日勿市附是物仙家大忌 同上

八月七日沐令人聰明 同上

八月八日以枸杞茱萸作湯沐浴令人光澤不病不老 云夏七箇

八月八日不宜眠 千金月令
(1)

八月十日四民並以朱點小兒頭名為天矣以厭疾也 刺繫歲時記

八月十九日拔白永不生 四時纂要

八月二十二日日出時沐浴令人無祟禍 云夏七箇

八月二十日宣浴四時纂要

八月辰日施錢一文日倍還富貴 皇子秘錄

八月可食韭菜可食露葵 千金月令

八月勿食生蒜傷人神損膽氣

八月勿食葫蘆傷人神損膽氣令人喘憊股肋氣急 千金方

八月勿食姜傷人神損壽 同上
(5)

八月勿食猪肺及稻和食之 至及發痘 同上
(6)

- (1) 八月一日不宜眠。い本「不空臥」に作る。
(2) 十日四民。曲直瀬本「十四日民」に作る。

(3) 八月二十日。三木本「八月二十日」に作る。

(4) 八月勿食生蒜。三木本によれば出典は「食醫心鏡」。

(5) 姜。三木本「薑」に作る。

(6) 至及。三木本「至冬」に作る。

八月勿食雞肉傷人神氣同上

八月勿食雉肉損人神氣同上八月建酉日食雞肉令人神氣

八月食鹿肉動氣冬季

八月勿食芥菜恐病蛟龍癩發則似癩面色青黃小腹脹

八月行途之間勿飲陰地流泉令人發瘧瘴氣摸腳令數同上

仲秋宜增酸減辛以養肝氣無令極乾令人瘦三箇七歲

八月勿食生蜜多作霍亂同上

八月勿食生果子令人多瘡同上

仲秋肝藏少氣肺藏多火宜助肝氣補肺養脾胃胃同上

八月起居以時勿犯賊邪之風勿增肥腥令人霍亂同上

八月勿食雞子傷神四肢甚要

八月勿食生蜜多作霍亂同上

八月宜食三勒裝⁽⁹⁾非月則不佳失其法用調梨勒臘勒蒼摩

勒以上並和核用各三兩搗如⁽¹⁰⁾豆三天用細白蜜一斗收斬

蜜水二斗熟調投乾淨五斗瀝瓮中⁽¹¹⁾即下三勒未熟

擣數童紙密封三四日開更捲以乾淨綿拭去汗候發完

即止但密封⁽¹²⁾一日合滿三十日即成味至日美飲之醉人

消食下氣同上

八月陰氣始盛冷疾者宜以防之千金月令

八月採桔實夏水浸去皮取中子白乾仙方單服其寶正赤

時取中子陰乾⁽¹³⁾末水服二錢名⁽¹⁴⁾久乃佳冬半而經

八月前每菌蟹腹內有稻穀一顆用輸海神符轉苦後過

八月方食未經霜有毒食療多害

(7) 雞肉。い本・三木本「雉肉」を作る。

(8) 乾。三木本「飽」に作る。

(9) 非月。い本・三木本「非此月」に作る。

(10) 膜豆。い本・三木本「麻豆」に作る。

(11) 繩。三木本「帛」に作る。

(12) 成。い本「或」に作る。

(13) 日美。三木本「甘美」に作る。

(14) 蓿來。三木本「蓆末」に作る。

秋分之日不可殺生不可以行刑罰不可以處房帷不可吊喪問疾
不可以大醉君子必齋戒靜專以自揆 千金月令

九月

九月九日採菊花⁽¹⁾與茯苓松柏脂丸服令人不老太清拾遺本末

九月九日俗以茱萸房插頭言辟惡氣而禦初寒同上及王記

九月九日佩茱萸⁽²⁾食飲菊花酒令人長壽西京雜記

九月九日以菊花釀酒其香且治頭風呂公成時雜記

九月九日天欲明時以片餅擦兒頭上乳保祐持去如此五百事

營高⁽³⁾目上

九月九日收拘杞浸酒飲不老亦不髮白兼去一切風四時纂要

(4) 高。い本「高也」に作る。

九月九日菊花暴乾取家粳米一斗蒸熟用五兩菊花末浸
杵如常醸法多用細麵趨為惟酒熟即剝之去滓每瓊

一小盞服治頭風頭旋聖惠方

九月九日真菊花末飲服方寸匕治酒醉不醒牛壘秘要

九月九日勿起床席全吉仙誌或

九月十六日老子拔白日真詒

九月十八日忌遠行不違其期又復七載

九月二十日宜齊戒沐浴淨心必得吉事天祐人福同上

九月二十日雞三唱時沐浴令人辟兵同上

九月二十一日取枸杞茱萸作湯沐浴令人光澤不病不老同上

九月二十八日宜浴四肢集要

(1) 花与茱萸。三木本この四字を缺く。

(2) 同處風土記。三木本「周處風土記」に作る。

(3) 食。い本、三木本「食餌」に作る。

(5) 治酒醉。三木本「治頭風」に作る。

(6) 床。三木本「牀」に作る。

九月之節始服夾衣陰氣既裏陽氣未伏可以餌補傷之藥

千金月令

九月中宜造地黃湯其法取地黃淨洗以竹刀子薄切裹乾姜

作湯時先微火熬研為末煎如茶法

同上

九月食姜⁽¹⁾搜目此出千金方八月九月勿食姜傷人神搜毒

九月勿食脾不是季月土旺在脾故也

同上

九月勿食大肉傷人神氣

同上

九月食霜下瓜必冬發此出本草又孫真人之食霜下瓜

九月食麋羊肉動氣同上

同上

九月食麋城及人家九月內於戊地間穴深三尺以上埋炭五斤或五或

五十斤或五百斤成大墓也自然無火穴千金方

穢季月末一十八日省身增酸以養胃氣

同上

秋季之月立王時勿食生薑令人飲食不化發宿病

同上

季秋節約生薑以防屬疾勿食諸姜食之成痼疾勿食小薑傷

神損壽鬼魄不安勿食茱子⁽¹²⁾損人志氣勿以猪肝和鵝同

食至冬成痼病經年不差勿食稚雞等肉損人神氣

食雞肉令人鬼不安鬼驚散云符七載

季秋肝藏氣微肺全用事宜增酸以益肝氣助筋補血以

及其時

同上

九月十月取韋陸根三十斤凈洗薑切長二寸許勿令中風也

綃裹盡盛懸屋北六十日陰燥為末以方寸匕水服之宜先

食服十日見鬼六十日便鬼取金銀室物作屋舍隨意貯

故八十日見千里百日身飛行晉風覆雲騰化為筋久

(7) 姜。三木本「薑」に作る。

(8) 八月。い本・三木本「又曰」に作る。

(9) 血必冬發。曲直瀨本「冬翻胃」に作る。

(10) 食霜下瓜。三木本、この下に「或反胃病」と記す。

(11) 於戊地。い本「於滅地」に作る。

(12) 間穴。三木本「開炊」に作る。

(13) 深。い本「次澤」に作る。

(14) 上。三木本「土」に作る。

(15) 或五。三木本「或五秤」に作る。

(16) 戊。い本「戌」に作る。

(17) 姜。三木本「薑」に作る。

(18) 菜子。三木本「蓼子」に作る。

(19) 雅雉。三木本「鴟雉」に作る。

服成仙羹 同上

十月

十月一日宜沐浴 四時葵羹

十月四日勿責罰人仙家太忌同上又符云夏七歲立十月五日勿責罰人也

十月十日宜拔白同上

十月十三日老子拔白日 真詳

十月十四日取枸杞茱萸作湯沐浴令人光澤不病不老云夏七歲

十月十五日下元日可行道建齋修身謝過正一供真旨要

十月十八日雞初鳴時沐浴令人長壽云夏七歲

十月上亥日採枸杞子二升採時面東摘生地黃汁三升以好酒二升於瓷瓶內浸二十日取出研令地黃汁同浸擣之

(1) 頭了。い本「頭子」に作る。

却以三重封其頭了更浸候至立春前三日開已過遂
日空心飲一盃至立春後髮鬢麥白補益精氣脈之耐先
輕身無比 紅驗後方

十月上己日採槐子服之槐者虛星之精去百病長生通神 太清

苦木方

十月之節始服寒脈 千金月令

十月宜進米湯其米湯法取大棗除去皮核中破之於文武

火上翻覆炙令香然後煮作湯 同上

十月勿食猪肉發宿病 白雲先生雜忌

十月勿食椒根心傷血脉 千金方

十月勿食生薤令人多涕唾同上

十月勿食被霜者令人面上無光澤眼目澀痛(二)月上

十月不得入室避陰陽(三)用事之月也日上

十月食獐肉動氣李子言

冬七十二日省減增苦以養心氣千金方

冬月勿以利斧撓熱酒而飲令頭旋不可枝梧殘碎錄

冬不可食猪腰全體要思方

冬夜伸足卧則一身俱緩同上

冬夜卧衣被蓋要復太暖睡覺張目出其毒氣則水濕痰疾同上

凡臥冬故得頭向西有取利益云艾七載

冬日宜溫足凍脛同上

孟冬早卧晚起必候天曉使至溫暢無泄大汗勿犯水寒溫養

神氣無令邪氣外至同上

冬不用抗冷物鉄石等令人眼暗同上

冬月夜長及性熱少食溫軟物食訖搖動令消不爾成脚氣同上

冬月食芋不發病他時月不可食芋草同上

冬月不宜多食葱同上

冬三月早卧晚起必待日光黃帝素問

冬服藥酒兩三劑立春則止終身常爾則百病不生千金方

冬月宜服鍾乳酒主補膏髓益氣力逐溼其方用氣也八分

舊舊一升熬別爛搗牛膝四五加皮四地骨皮四桂心

二兩防風二兩仙灵脾三兩鐘乳五兩草薢浸三日以羊牛

乳煮熟中浸去於炊飯上蒸之牛乳盡出胶水津陶洗碎如

(2) 痛。曲直瀕本「病」に作る。

(3) 純。い本「絶」に作る。

(4) 冬。曲直瀕本「冬月」に作る。

(6) 食芋。三木本「食羊」に作る。

(7) 一升熬別爛搗。三木本、割注とす。

麻豆名諸藥並細剉布袋子貯浸於三斗酒中五日後可取飲出一升清酒量其藥味即出藥起十月一日至立春止

忌生葱陳臭物 四時禁要

十一月

十一月十日十一日捨白永不生四時禁要

十一月十一日不可沐浴仙家大忌 同上 畜生七載 又接千金月令云

十一月宜沐浴

十一月十一日取狗糞米煮作湯沐浴令人光澤不病不老

十一月十五日遇夜半時沐浴令人不憂畏 同上

十一月十六日沐浴吉 四時禁要

十一月勿食蠶蟻令人水病 同上

十一月勿食陳脯 同上 又接千金月令云十一月勿食經夏臭脯成水病頭

駁陰癆

十一月勿食鷄脊令人惡心 同上

十一月勿食生菜令人發宿疾 同上

十一月勿食生薑令人多泄泄 千金方

十一月勿食(2)肉令人神氣日上 食

(3)十一月勿食葦蚌 茄甲之物 同上

十一月食獐肉 動氣本草

十一月陰陽爭冬至前後各五日別寢 四時禁要

十一月取蕷莖根洗皮切長二寸許勿令中風也 紹棄本草
屋(金)六十日陰燥為末以方寸匕水服之且先服十日見鬼六

(1) 瘥。三木本「瘧」に作る。

(2) 勿鼠肉。三木本「勿食鼠肉」に作る。

(3) 十一月勿食蝦蚌。三木本、次の「食獐肉」の条と順序轉倒。

(4) 其。三木本「北」に作る。

十日後鬼取金銀寶物一星舍隨意所取八十日見千里

百日身乘行空風復雲勝化為筋火脈成仙矣三星七藏
仲冬勿以炎火灸腹背勿食蠶肉傷人神竟勿食焙肉宜減酸增

苦以助其神氣勿食螺蚌蟹蠍等物損人志氣長尸屋

勿食經夏黍米中肺暗食之成水癆疾日上

(5) 仲冬督氣正王心肺裏宜助肺安神補理脾胃無年其時勿暴

溫燥切慎東南賊邪之風犯之令人多汗面腫腰脊強痛四肢不適同上

十一月之節可以餌補藥不可以餌大熱之藥宜早食宜進宿熟之肉于金月令

共三民有不享子以冬至日死焉瘦鬼畏赤小豆故冬至日以赤小豆

獨樂之四時禁要

(6) 冬至日鑽燧取火可去溫病鑽漢書禮儀志

冬至日陽氣堵肉腹中熱物入胃易消化秦生要集

冬至日勿多言一陽方生不可大用瑣碎錄

每冬至日於北壁下布享鋪草而卧云受元氣千金方

冬至日取胡芦盛葱汁一根蒸熟於度中剉夏至發之盡為水

以凍金玉銀青石各三分自消矣服令乾如飴可休報文服

神仙名曰神仙消金玉藥又曰金精(7) 二洞要錄三木本「三洞要錄」に作る。

仲冬之月日短至陰陽爭諾生湯君子齋戒處必捲起身身欲

寧了去聲色禁嗜欲安形性事欲靜以待陰陽之歌定

十二月

(5) 肺暗。い本・三木本「肺暗」に作る。

十二月一日宜沐浴 玄冥七歲

十二月二日宜浴去灾四時集要

十二月三日宜齋戒燒香念仙 玄冥七歲

十二月七日拔白永不生四時集要

十二月八日沐浴轉除罪障割楚歲記

十二月十三日夜半時沐浴令人得至女侍房 玄冥七歲

十二月十五日沐浴去灾四時集要

十二月二十三日沐浴吉 同上

十二月二十四日沐浴點燈謂之照虛耗也 (1) (2) 夢華錄

十二月勿食牛肉傷人神氣 千金方

十二月勿食生薑令人多溼噯 同上 又沐浴玄冥七歲 玄冥七歲

生薑增疾飲疾

十二月勿食鱠蟹損人神氣又六月食之害人心神 同上

十二月勿食蝦蟇著甲之物 同上

冬季月末一十八日首耳增酸以養腎氣 同上

冬季之月土主時勿食生薑菜令人飲食不化發宿疾 同上

季冬去凍就溫泡皮膚大汗以助陽氣勿寒溫煖勿犯人言是 (4)

月肺藏氣微腎藏火王可減酸增苦以奉其神宜小宣不 (5)

飲全補是月衆陽俱息水氣獨行懷孕風勿傷筋骨勿 (6)

牽針刺以其血流津液不行 玄冥七歲 (7) (8)

季冬勿食豬狗肉傷人神氣勿食霜死之果菜夫人顏色勿 (7) (8)

(3) 十二月勿食鰐蚌。い本・三木本、この條の次に「十二月勿食麋肉動氣

本草」とあり。

(4) 人。三木本「大」に作る。

(5) 月。い本「日」に作る。

(6) 筋骨。三木本「骨筋」に作る。

(7) 菜。い本「桑」に作る。

(8) 天。三木本・曲直瀬本「失」に作る。

(9) 食自死肉。傷人神。竟自食生微。傷人血脉。同上。

十二月娶旦日造門令盜不敢來。墨子叔孫。

十二月上亥日取猪脂內新瓦器中埋支地百日主癱症名絕。

脂方家用之。一斤脂著雞子白十四枚更良。本草。

宣帝時陳子方者。臘日晨炊而社神形見子方。每拜以黃羊。

祀之自是以後暴至巨富。故後當以腊日祠社。搜神記。

歲暮臘埋圓石於宅隅雜以桃枝七枝則無鬼疫。淮南子。

臘夜持椒三七粒卧井旁勿與人言。投于井中除溫疫。本草。

要術

臘日掛豬耳於堂梁上令人致富四時甚要。

臘日收猪脂勺令經水新黑盛埋亥地百日治癰疽。此月收未得用。

上又按孫真人食忌云。臘月猪脂可煎膏用之。

臘月取皂角燒為末遇時疫早起以井花水一錢服之。〔13〕。

効差 同上

臘月剪歌舞。犯者必凶。千金方。

臘月空心用蒸餅卷枝猪脂食之不生瘡。齊文脈身條光滑。

項辟錄

臘日取猪脂四兩懸於廁上入夏一家即無蠅子。同上。

臘日取治單以油煎為膏湯大齊減癥極良。本草 南絳。

臘後遇除日取單頭燒灰於于地上埋之。水無累耗。

臘月好合藥鉗。經久不觸。本草。

臘月水日晒。厚薄能去疊疊。項辟錄。

(14) 晒。三木本「曬」に作る。

(10) 一斤。三木本「一升」に作る。

(11) 社。い本「灶」に、三木本「竈」に作る。

(12) 同右。

臘 片收雄狐膽若有人卒暴亡未移時著溫水微研灌入喉即活
掌酒發僵救人終時即無及矣(15) 繼草信方

臘 月好合茵陳圓療瘡氣時疫溫苦等若山嶺奉行此藥常

湏隨身其方用茵陳四兩大黃五兩(16) 胁心五令煎今者恒山

三兩施子人(17) 三兩桂硝三兩杏人三兩生皮大黃研碎後入之蟄甲

二兩去服酒及醋塗灸巴豆(18) 一兩去皮心熟剝研入之名九味鵝鷄

蜜和烏圓初得時氣三日旦飲服五圓如梧桐子大如人行

千里或利或汗或吐或不吐不汗利手更服一圓五里久不

覺即以熱飲促之先小以意酌度凡黃病瘡病時氣傷寒

瘡瘍小兒熟敎發癆服之無不差療瘡神功兼白斬家頭

春初一服一年不病忌人莫芋笋豬肉收藏中以蠅用瓶口

置高處逐時減出可三二年一合(四時纂要)

臘 月取青魚臍陰乾如患喉閼及胃鍛即以臍少許口中含咽

津即愈齊人年全月令

十二月暮春日掘完四角各埋一大石為鎮宅立安里不起本草

十二月三十日取枸杞茱萸作湯沐浴令人光澤不老此出云

夏七歲又接四時纂要云三十日浴吉去灾也

十二月臘日前兩日通暖三日齊城燒香靜念仙家重之四時纂要

十二月臘日日中懸瘧麻沉井中令至正月朔日午曉出藥置

酒中煎數沸於東向戶中飲之瘧麻之飲先從小起多

少自在一人飲一家無疫一家飲一甲無疫飲藥酒得三朝

還淳置井中能仍咸飲可世無病當家内外有井營添

(15) 繼草信方。三木本「續傳信方」に作る。

(16) 胁心。い本「肢心」に作る。

(17) 人。三木本「仁」に作る。

(18) 同右。

(19) 一甲。三木本「一室」に、曲直瀬本「一里」に作る。

著藥辟溫氣也。其方用大薑六十六錢白朮十六錢桔梗十

五錢去夢頭蜀椒十五錢去目桂心十八錢玄皮烏頭六錢地

去皮膚(20)苦參十二錢

右七味㕮咀絳袋盛之出和糲勺一方一

方又有防風一兩去夢頭

歲暮日合家髮披井中祝曰勅使集甲之家口未嘗一年不患傷

寒辟却五瘟鬼(21)墨子抄錄

歲除夜續紫於庭燒之辟火而助陽氣四時禁要

歲除夜室房中集衆燒皇角令烟不出眼後出禹限亦辟(22)疫

氣(23)呂公歲時雜記

除夜戒怒罵婢妾破壞器皿仍不可大醉也(24)項辟錄

歲除夜集家中眠不用藥焚之中庭以辟疫氣(25)呂公歲時雜記

除夜神佛前及所堂房間皆明燈至曉主家宅光明項辟錄

夜(26)於富家田內取土沃社(27)主招財同上

歲除夜四更取麻子小豆各二七粒家人髮少許披井中終歲不遭

傷寒溫度(28)並龍河圖

除夜五更使一人堂中向室角一人問云扇甚底答云扇蚊子凡

七問乃已則無蚊虫也(29)項辟錄

(20) 芭羹。三木本、大字にて「拔禊」を作る。

(21) 所堂。三木本「火」に作る。

(22) 疫氣。い本「疫」に作る。なお、い本、以下五條を缺く。

(23)

(24)

(25)

(26)

(27)

(28)

(29)

(30)

(31)

(32)

(33)

(34)

(35)

(36)

(37)

(38)

(39)

(40)

(41)

(42)

(43)

(44)

(45)

(46)

(47)